チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

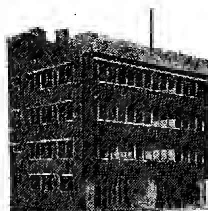

営業二課／栗田満夫

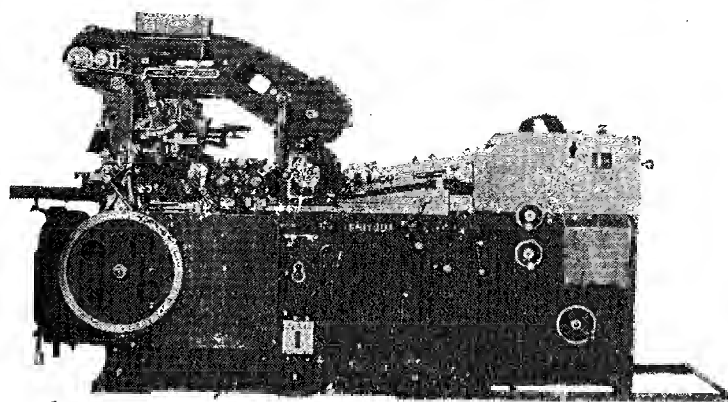
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。


営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。
よい製品をつくる励みになります。


営業三課／打林行夫

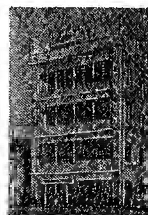

本社新社屋



新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　　社　東京都千代田区神田猿楽町１－４　TEL　東京(292) 2011（代）～8
横浜支社　横浜市西区高島通り１－７　TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社　福岡市御供所町３番16号（聖福寺前）　TEL　福岡（28）3960・0153
立川工場　東京都昭島市東町１丁目１番地５号　TEL　立川(0425) 2－2470・4383
九州工場　佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　TEL　牛津　72


横浜支社

ハンドボール「第53号目次」

昭和43年5月号

表紙写真　関東学生春季リーグ戦入場式＝4月27日．駒沢第1球技場

（昭和13年春に5大学で発足した関東学生リーグも30年の才月を経て男子34校，女子5校の大世帯に成長した．）

時評

情報を選手団に

ドイツ・デンマーク女子の

別掲のように第4回女子7人制ハンドボール世界選手権大会の本大会の組み合せが決定した。

組み合せを見ると、西ドイツ、デンマークとの予選リーグが組まれている。どちらの国とも、すでに過去の選手権大会の予選で対戦し、彼我の力もおよその所は判っている国である。

今回の世界選手権の最な優力の国とは、どちらも云えない。

上位進出をめざす日本チームにとっては、きわめてラッキーなくじといってよいであろう。相手の力量も大凡は判っているし、それが決して負けない。どちらかと云えば、むしろ日本が有利と判断できる両国と予選リーグで対戦することになったのは、ラッキー以外の何物でもないと云うことが云えよう。

思えば、この世界選手権、一時は全く出場を断念しなくてはならないのではないかというところまで追いこまれたのを、IHFならびにソ連協会の好意によって、本大会に直接出場できることになった。これがまずラッキーのはじまりと云えよう。

このラッキーなくじを生かすのは日本のハンドボール界の努力しだいであろう。

日本のハンドボール界には、先の遠征で両国と対した関係者はかなりいよう。その時の資料を公開するなり、今回の選手団に提出し、十二分の策をもって、選手団が両チームに対せるように配慮すべきであろう。

相手を知り、また相手チームの個々の選手の特徴を知っているのと、知っていないのとでは、全く策のたて方も異ってこよう。

もちろん65年の時と今年とでは相手チームの内容も異っていようが、チームカラー、また個々の選手の生命が永いことを考えれば、西ドイツ、デンマークの選手ともかって対戦した選手がいることは間違いない。

また昨秋来日した西ドイツチームの主力選手とは再びあいまみえることとなろう。

とにかく、現在日本で採集しうる両国チームについての情報をすべて収集し、選手団に提出し、十二分の分析と対策をたてて、選手団にソ連にのりこんでもらえるようにしたいものだ。

このようなラッキーなくじは、これから先、めぐりあえるかどうか判らない。上位進出をめざす我国にとっては又とない機会になろう。

このチャンスを日本ハンドボール界のチャンスとして生かすよう関係者は総力をあげ、努力していこうではないか（T・F）

西ドイツ、デンマークと争う

日本はC組に出場

女子世界選手権の組み合せ決まる

第4回女子7人制ハンドボール世界選手権大会は、本年11月16日から24日までソ連のモスコー、キエフ、レニングラードを会場として開かれるが、すでに前哨戦の予選はおわり、本大会に出場するチーム国が決定し、別掲のような組み合せが4月6日フランクフルトで内定した。

予選は本年一月から三月にかけて、二回戦方式によって、ユーゴー――オランダ、チェコ――ノルウェー、デンマーク――ポーランド、ルーマニア――スウェーデン、東ドイツ――ブルガリアの五カードで行なわれていたが、ユーゴ、チェコ、デンマーク、ルーマニア、東ドイツの5ケ国が勝ち残り、予選を経ずに本大会に出場する、前回優勝のハンガリー、開催国のソ連、幸運の西ドイツ、それに日本を加えた9ケ国によって本大会が争われることになった。

本大会は9ケ国の参加であるので、IHFの世界選手権大会規定(本誌29頁参照)によって、三ケ国づつをA、B、Cの三グループに分けての予選リーグ。各グループの上位二チームの計六チームをまたⅠⅡの二グループに分けて、三チームずつの準決勝リーグ(Aグループ1位・Bグループ2位・Cグループ1位。Aグループ2位・Bグループ1位・Cグループ2位)、Ⅰ・Ⅱグループの一位同士による決勝戦、二位同士による三位決定戦、三位同士による五位決定戦が行なわれる。第二回女子世界選手権もこの方式で行なわれている。

日本の出場するCグループは西ドイツ、デンマークがいる。デンマークと予選リーグで顔を合わせるのは三回目、西ドイツとは二回目であり、いずれも顔なじみといったところになったのは因縁めいている。第三回の時は、今回のCグループにユーゴが入っていただけであり、第三回の時と全く同じといってよい顔合せ。日本チームの健斗が大いに期待されるところである。

予選リーグ

A 組

ユーゴスラビア
チェコスロバキア
ソビエト連邦

B 組

東ドイツ
ハンガリー
ルーマニア

C 組

西ドイツ
デンマーク
日　本

準決勝リーグ

Ⅰ組
A組1位，B組2位，C組1位

Ⅱ組
A組2位，B組1位，C組2位

決　勝

Ⅰ組1位—Ⅱ組1位

三 位 決 定

Ⅰ組2位—Ⅱ組2位

五 位 決 定

Ⅰ組3位—Ⅱ組3位

七～九位決定

予選リーグA組，B組，C組の3位によってリーグ戦で争われる.

ソ連、東ドイツ、ユーゴの争いか

ラッキーな組み合せの日本

無敗で準決勝リーグ進出も有望

解説と予想

日本が世界選手権に出場するのはこれが三度目、その戦績は、第二回大会は予選リーグで二敗し、三位。7～9位リーグに出場して二敗し、9位。第三回大会では、準決勝リーグで三敗し、四位。7位決定戦に出場し、ポーランドを敗り、七位となり、本大会では一勝七敗（第三回大会では、チェコと予選をし、二敗している）と芳しい戦績とは云い難い。しかしながら、前回では、ポーランドを敗り、また予選リーグでも、デンマークとは一点差、しかもレフェリーの判定に泣かされた試合をしており、西ドイツとも世界選手権後のブッパータールでナショナルチームをたおしている。

昨秋来日した西ドイツチームのメンバーは今回もかなりの人数がナショナルチームのメンバーとして登場することが予想されるから、この組み合せは我が国にとって比較的やりやすい相手であったと云えよう。

世界選手権大会の予選リーグの組み合せは、前回の順位によってシードされるので、このような組み合せになったものである。

Aグループは前回2位のユーゴと4位のチェコ、前回本大会棄権のソ連。Bグループは前回優勝のハンガリー、6位のルーマニア、前回は予選でハンガリーと当り不幸にも抽せん負けして本大会に出場できなかった東ドイツ。Cグループは前回3位の西ドイツ、5位のデンマーク、7位の日本という組み合せである。

日本は現在の各国の力から云って、一番良い組み合せに恵まれたということが云えよう。というのは、今回シードされていないが、どちらも優勝の最右翼と目されるソ連、東ドイツが他のグループに入り、シードチームの中でも、比較的くみし易いところに入ったからである。西ドイツ、デンマークが相手ならば、予選リーグを傷なく通過することも夢ではない。C組には、今回の大会の本命の優勝候補のチームはどこもないといって良いと考えられるので、日本の準決勝リーグ進出はこれからの努力と調子しだいというところであろう。この恵まれた組み合せを利して、大いに活躍してほしいものだ。

AグループとBグループは現在の実力から云えば、トップチームが目白押しというところで、どこが出るにしても、優勝はこの両グループの中から出ることは間違いないものと見られる。

Aグループのソ連はナショナルチームも、ナショナルチームの主体となっているであろうシャルジリス・カウナスも極めて快調であり、しかも地元という極めて有利な条件をもち、昨秋には、ハンガリーに完勝しているといったニュースが入ってきている。これに続くのが、ユーゴということになろう。ユーゴは今冬の試合においてチェコを9—5で敗っている実績もあり、まず二番手ということになろう。しかしながら、チェコもハンガリーを10—7と破っており、その実力は侮れないものをもっている。激戦が予想されるが、ソ連、ユーゴが準決勝リーグに進出することが考えられる。

Bグループも激戦が予想される。おそらく、このグループの1位は東ドイツがなるものと考えられる。この所きわめて快調に国際試合を勝ちぬいている東ドイツであり、今冬もルーマニアに二勝するなど大活躍をしている。ハンガリーはソ連、チェコなどに敗れるという不振が続いており、連続優勝はおぼつかないと考えるのが順当なところであろう。ルーマニアも東ドイツに連敗し、西ドイツ、デンマークに辛勝するなど好調とはいえず予選でもスウェーデンに辛勝し、モタついているので、Bグループは東ドイツの1位と見るのが順当なところであろう。あと一国はどちらがでるか、その日の調子しだいであろう。

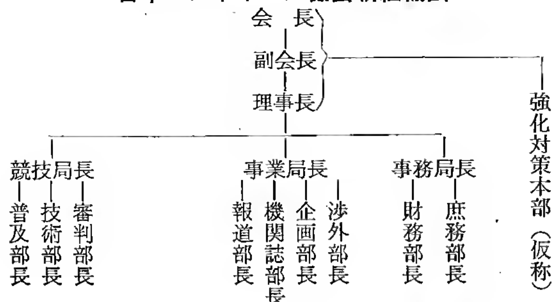
結局準決勝リーグ戦のⅠグループからはA組の1位になったソ連もしくはユーゴが決勝に出、Ⅱグループからは東ドイツとAグループの2位の勝者が進出し、その両者によって決勝が争われることになろう。いずれにしてもソ連、ユーゴ、東ドイツの三ケ国の中から優勝チームが出ると考えるのが順当なところであろう。これにハンガリー、ルーマニア、チェコ、日本がどのようにからむかが今大回の焦点となろう。日本チームは組み合せを利して、何が何でも準決勝リーグに進出してもらいたいものだ。（藤本）

強化対策本部（仮称）設置

機構改組案の骨子まとまる

2月の定例評議員会以来、懸案になっていた協会組織の改組は検討を重ねられていたが、このたびその骨子がまとまった。

別表のとおり、強化対策本部（仮称）が別個に設けられることになり、世界選手権へ、またオリンピックへの強化を図る機構が確立されることになり、トップレベルの強化に本腰が入れられることとなった。



また、改組の声が強かった事務機構にも手がつけられ、従来の各部を三つに組織しなおし、新たにその上に局を置き、運営組織を強固にすることになった。

事務局には、従来の総務・会計が繰り入れられ、協会のいわゆる事務面を統轄していくこととなった。

事業局は対外交渉にあたる渉外部、行事日程、将来計画などを検討する企画部、機関誌の発行を行なう機関誌部、報道を取り扱う報道部が入っている。

競技局は従来から競技関係を司さどってきている技術・審判・普及の三部が組み入れられることとなった。

これらの改組はオリンピック、世界選手権対策をたて強化対策本部を含め、広く人材を求めて、活潑に活動できるように考えられたものであり、特に現在、層の薄さが問題になっている役員層を拡充し、次代の役員を養成することまた縦横の関連を密にすること、責任体制を確立することなどが主要な眼目となっている。

各部には、部長の統轄の下に、専門委員会が設けられ、各委員会には、それぞれ一名の委員長が置かれ、部長、委員長の綿密な連絡の下に実際の活動がなされるようになることが望まれている。

また各部長はそれぞれの業務に責任をもち、総合的見地からの施策をたて、局長とも綿密な連絡を保つように配慮された。

局長—→部長—→委員長—→委員の縦の関係により、スムーズに仕事をするとともに、理事長と局長との間の連絡会議がもたれ、常務理事会とともに運営の円滑化を図ることが一つの大きな改組の理由といえよう。

詳細は今後の検討にまつことになるが、多くの人材がくりいれられ、より活潑な協会運営が行なわれるものと期待される。

なお、強化対策本部（仮称）長は荒川理事長の兼務、事務局長は岡村常務理事、事業局長には的場常務理事、競技局長には若崎常務理事が就任することになっており、各部長には、現在その任にあたっている常務理事がそのままつくことになる予定である。

強化対策本部は発足が決定しただけであるが、四年後のオリンピックを控え、その早急な活動が望まれる。

球界を挙げて、トップレベルの強化を図ることがまず今日の目標と考えられるので、ハンドボール界のなす第一の目標として、総力を結集して、よりよい強化対策が推し進められるような体制が固められることが望まれる。

ミュンヘンへの第一関門である第7回世界選手権は1970年の2月25日から3月8日に開催の予定であるから、もう二年もない。

眼の前に迫っているトップレベルの強化に、全力を挙げて、邁進することが望まれるのである。

順調に組織がすべり出し円滑な運営がなされるよう願ってやまない。

理解、協力が必要 ……新組織案

▽……トップレベルの強化、事務系統のテコいれ、この二つは球界の急務であった。

今回提出された機構改組案は、この二つの課題をいっきょに解決してくれるものと、大いに期待がかけられる。

なかでも〝強化対策本部〟はまだか、まだかと催促されていたような状態であっただけに、その設置にはまったく異論は出ないであろう。

▽……問題は、今後この機構をどう活用していくかだ。

それには、新ポストである局長部長クラスが、担当パートの任務を充分に検討し、実現までのあいだになっとくいくまで常務理事会なり、理事会で話しあうことが必要だ。スタッフについては、別掲にもあるように、次代の役員養成という点も考りょされて人選されることになる。結構なことだ。

広く深い範囲から人材を選び出し、フレッシュな施政が各面で展開されることを待望したい。

▽……この機構が軌道にのり、成功するか否かのカギは、全国関係者の理解、協力ぶりにあるともいえる。

オリンピック出場、世界選手権上位入賞という大目標達成のためには、自我を捨てすべてが、この機構から出る指令にもとずいて活動されなければなるまい。

〝選手強化対策本部〟の方針と行動には、特に、強い協力が望まれよう。（X）

日本リーグ、5月中に結論

実連内に準備委が発足

　全日本実業団連盟は、2月の日本協会全国評議員会の決定にもとずき、同連盟内に「日本リーグ設立準備委員会」を設けることになり委員として田中滋章（愛知実連副会長）、平出一（関東実連理事長）、竹野奉昭（大崎電気男子監督）＝以上いずれも全日本実連理事＝　永井正美（愛知実連理事）の4氏を決め、代表者に田中氏を選んだ。

　発足した「日本リーグ設立準備委員会」は、日本リーグ実施の準備にあたるわけではなく、机上論にすぎぬ日本リーグ問題の基本的な検討から着手。5月末までには開催か否かの結論を出す予定。

　このため、同委では球界関係者ばかりではなく、すでに日本リーグを実施しているサッカー、アイスホッケーなど他競技団体や学識経験者、本誌読者（詳細別掲）からも積極的に意見を聞き、広範囲から基礎資料を集めて、一つの見解をまとめ、結論を導きだす方法を採ることになった。

読者へお願い……

日本リーグ設立準備委

　全日本実連内に新発足した日本リーグ設立準備委員会は、日本リーグの実現には、球界あげての協力がない限り、成功させることは難しいという見地から、広く関係者、ファンから参考意見を求めることになり、本誌を通じて次のようなアンケートの回答を読者諸兄が寄せるよう要望している。

　トップレベルの強化と普及のために日本リーグの実施は最善策の一つと考えられ、ヨーロッパ各国のハンドボール界では、今や全国リーグは〝常識〟になっているほどだ。

　実現へ踏み切る見通しがつけば6月以降は参加チーム問題、試合方式など具体案を作成し、昭和44年度から同リーグを発足させるように、球界内の調整を進めることになる。

　なお、男女とも日本リーグを行うかどうかは、この調査の結果によって対策をこうじるが、女子のみ44年度から、男子は45年度以後ということもあり得よう。

　なお、アンケートは左記6項目だが、このうち特定の項目のみの回答（意見）でもよいと同委ではいっている。

　読者諸兄姉の高説が多数おくられるよう編集部からもお願いしておきたい。

日本ハンドボールリーグ　アンケート

▽**質問1**　日本ハンドボール協会で、将来、最終的に目標とする大会形式はどうすればよいと思いますか（一般・実業団・学生・各都道府県・ブロック・全日本の各大会）

▽**質問2**　現在行なっている全日本選抜選手権は、全日本総合、全日本学生・全日本実業団、全日本教職員・国体（一般）から選抜して居り、真の最強チームの集まりではないのでは？という批判の声もありますが、どうお考えですか。

　全日本選抜選手権の意義、評価をお聞かせ下さい。

▽**質問3**　日本リーグを行うとすればどんな効果が得られると思いますか。また、その効果を得るためには、日本リーグ以外の方法は考えられませんか。考えられるならその方法をお聞かせ下さい。

▽**質問4**　ハッキリ云って日本リーグ開催について賛成か否かお答え下さい。で、その理由は……（ただし、学生チームは日本リーグには含まない予定です）

▽**質問5**　女子については強豪チームが実業団チームになっているので、日本リーグを開催するのは比較的容易と思われますが男子の場合、学生チームが強いので、非常に難かしいと思われます。そこで男子の日本リーグを開催するについて、下記のような意見があると思いますが、この内から選び出し、その理由等を記して下さい。

(イ)実業団（社会人）チームが学生チームより強くなるのを待ってから日本リーグを計画する

(ロ)何はともあれ実業団上位チームだけで日本リーグを始める

(ハ)まず、日本実業団リーグまたは実業団上位リーグのような名称で、実業団連盟内部だけで行ない、将来の日本リーグの前身とする。

(ニ)一般、クラブチームも考りよに入れて、ただちに日本リーグを準備する。

(ホ)その他～その理由と意見～

▽**質問6**　その他日本リーグを開催するかどうかについて、どんな意見でもかまいません。何でもお聞かせ下さい。

回答先

　読者の中でアンケートに回答（意見）をお寄せくださるかたは5月15日までに『名古屋市千種区豊年町3の37　タヨシ産業内・日本ハンドボールリーグ設立準備委員会』あて郵送して下さい。用紙は自由。

「全日本学生」の要項発表

　全日本学生連盟では、7月10日から松山市で開く第11回（女子第4回）全日本学生選手権の要項を発表した。

　それによると、大会は7月10日から14日までの5日間、松山商大球技場と松山北高グランドを併用して行われ（雨天の場合は両校体育館）男子はトーナメント、女子はリーグ戦で進められる。

　大会申しこみ〆切日は6月5日で所定の用紙2通に記入の上「東京都渋谷区神南町25、日本ハンドボール協会内全日本学生ハンドボール連盟」に必着するよう同連盟では望んでいる。（各学連単位にまとめて提出するのも可）

新シーズンの有力チームを探る ②

杉山茂
（NHK運動部）

男子展望

○……ミュンヘン・オリンピックへつながる第7回世界男子7人制選手権（昭和45年1月、フランス）出場確定の報は全国の男子プレイヤーをこのうえなく刺激している。

スポーツマンにとって、国際試合の代表になることは、ひとつの目標であり、ましてやオリンピック・アスリートに選ばれることは最高の光栄である。

選手たちの奮起は、チーム力充実に結びつけられるわけで、今シーズン以後、男子界のトップチームによる激突はかってない内容とスリルに富んだものとなるであろう。

さて、男子界（一般）の最上位を占める〝力の色分け〟は、今年も学生界、実業団界、教員界、クラブ界という順になりそうだ。この分野別に新シーズンの有力チームを探ることにしよう。

学生界　去年は立教大（東京・関東）が全日本学生、同王座ほか学生関係の全タイトルを独占して、文学通り王座に君臨したが、快進撃の原動力だった木野、北村を卒業で失い、その連勝を不安がる声が強い。

しかし、折り紙つきのテクニシャン野田を主将に、東、小野口、倉前、戸田、細川、GK川口（天野）という布陣は、いぜんスキのない攻守を誇り、特に、前年の栄光を守り抜こうという斗志と自信は、他校に見られぬものである。一八六センチの有永、一八二センチの加藤の二人を安達新監督がどう使うか、そのさい配ぶりも注目される。

立教追う芝浦工大ら

立教大を追うのは芝浦工大、日体大、東京教大、法政大（いずれも東京・関東）、同志社大（京都・関西）関西大（大阪・関西）中京大（愛知・東海）あたりか。

芝浦工大は山田、近森、GK山村らを卒業させ、山田、近森の抜けた攻撃陣は、立教大以上に〝損害〟といわれるが、後続の選手層の厚さは随一だけに明石、秦、村上、白神、髙鍬、GK杉山（高橋）らで昨年とは異ったカラーによる強力チームを登場させることになりそうだ。無冠に終わるかに見えた昨年、最終の全日本選抜で優勝した自信も大きなプラス。新実、森の桜台高コンビをはじめ木全（明星高）、大江（岩国工）、GK原田（明星高）ら今年加った新人がどのように成長するかも楽しみだ。

日体大は、荒川監督が理事長職で忙しいため、専任コーチに往年の名GK北川勇喜氏を迎えた。大宮、樫塚らを送り出したが早川、高橋、井上、藤中を中心に試合運びの巧さは伝統的だ。

昨春、実業団の本田技研（三重）から入学したGK本田もようやく学生界のゲームになれ、今年は本領を発揮しよう。新人では氷海（明星高）がまず飛び出してくるだろう。

東京教大は、去年もっとも話題を集めたチーム。特に、全日本選抜で全立教を降した一戦は、久しく低迷していた同チームの復活の象徴ともいえるものだった。

去年のメンバーから大西、川島らが去ったが一八三センチの平岡をエースに浅野、畑、斉藤、GK上野らが健在。戦力的には一本調子気味だった去年よりも今年の方が多彩な展開を期待できる。上野がすっかり安定したのも大きい。

法政大も元気いっぱいである。正木、GK関口が卒業したものの大山、川島、石井、五十嵐、宇佐田らに新人荒井（明星高）を加えた攻撃は鋭い。キメの荒さが気になるが、関東学生の緒戦で東京教大を降した勢いがつづけば、最大のダークホースである。

同大、中京大にも期待

関西の雄同志社大は4月の西日本学生選手権に優勝して幸先よいスタートを切った。長身・飯田の卒業は痛いが、舟木、中井のロングシューターを活かした松浦、高橋、町田、中野、阪野らの攻守は一方の旗がしらだ。

関大は昨秋初の王座出場を果たし意気あがっているが4月の西日本学生では大阪体大に足もとをすくわれた。これを良薬として馬着、宮永を中心に立ち直りさえすればやはり関西にあっては最上位の力をもつ。

両校の課題は、関東勢にせり負けぬスピード・プレーをどこまでマスターするかにあろう。

中京大は去年の東日本学生で立教大と互角に戦ったメンバーがそっくり残っている。

リードマン黒川の巧技はすでに定評があり、高見、北川、鈴木、吉田らの攻撃力はA級。チームの意欲ももりあがっている。

問題は、東海学生界で楽勝をつづけて、激しい競争の中で実力を存分に発揮する経験を得られないのではないかということだ。

多士済々の第2グループ

トップグループにつづく第2群は例年になく多士済々だ。

関東勢では早大、中央大、明治大（いずれも東京）の一部各校。関西勢では大阪経大（大阪）、関学（兵庫）、京大（京都）。地方勢では東北学院大、東北大（ともに宮城、東北北海道）、山口大（山口・中四国）、西南学院大（福岡・九州）らがこのグループに属する。

早大、中央大は有力新人を加えてチーム力に厚味が出来、一波乱を招きそうである。

学連一体となって関東から王座を奪還しようとする関西の中では、卒業の痛手が少くまとまりのある京大、メキメキ力をつけて来た大阪経大の両校が虎視たんたんとしている。

学生界の消長を握るのはむしろ第2集団の実力いかんにかけられているわけで各校の健斗を期待してやまない。

このほか、慶応大（東京・関東）、甲南大（兵庫・関西）、桃山学院大（大阪・関西）名古屋大

（愛知・東海）、岡山大（岡山・中四国）広島商大（広島・中四国）九州大（福岡・九州）ら球歴を誇る各校も相応の布陣で上位を狙っている。

責任の重い学生界

新シーズンの楽しみは、毎年のことながら、新進校の抬頭ぶりだ

今年はへき頭の西日本学生で大阪体育大（大阪・関西）が準優勝、先行きの波乱を予想させるに充分な幕あけとなったが、関東では日大、明星大、国士館大（いずれも東京）、関西では大阪体育大のほか大阪外語大（大阪）の成長が評判である。

地方勢では各学連のきなみの加盟校増加で盟主校、伝統校の一角がシーズン毎に崩されていくが福井大（福井・北信越）名城大（愛知・東海）、九州産業大（福岡・九州）らは将来に大きな期待をよせることが出来る。全日本学生選手権を招いた松山商大、愛媛大（愛媛・ともに中四国）両校の試合ぶりも注目されよう。

ところで、2年後の世界選手権4年後のオリンピックで、全日本の主力となるのは、おそらく現役学生諸君だろう。

学生界を見る目は、球界あげての大目標を前にしていっそう厳しくなると思う。

学生選手諸君が、若さと力にあふれた好技を存分に発揮してくれてこそ、日本ハンドボール界の前進があるということを、あえてこの場につけ加えておきたい。

飯田、籏野加えた大崎
千代田印刷機は中大勢を

実業団界 実業団球界はまた一歩進んだようだ。質的にも、量的にも学生界に迫り、やがては他の競技同よう追い抜くのではないだろうか。

クラブよりもさらに悪い条件の中で、ハンドボールへの情熱をただ一つのよりどころとして会社内に蒔いた種が実り咲いてここまでに到達したチームの多いことを実業団球界は喜び、誇ってよい。

そうした基盤の上に今年は、大量の有力新人が各チームに分散して加った。面白くなりそうである。

トップグループは去年の三冠王大崎電気（埼玉）を筆頭に、東からみると千代田印刷機製造、三景（ともに東京）富士製鉄（愛知）常盤工業（岐阜）住友化学菊本（愛媛）となろう。

大崎電気は主力の竹野、北村、金田、井上、西村、GK福本らが年令的に絶頂期をすぎながら経験の豊かさにモノをいわせて三冠を掌中にしたのはみごとだった。

特に、有利な条件が一つもなかった全日本総合で全立教を降した一戦は、いっそうその声価を高めさせた。ベテランに交った近藤がつねに期待に応えるまじめなプレーを見せて活躍していたのも見逃せない。

今年は監督に竹野がプレイヤーを兼ねてすわり、北村、金田は退陣したものの、同志社大のエース飯田をはじめ籏野（早大）、佐々木（湯沢高）、太田（中大附高）ら多くの新人を加え『質量ともにぎやかなベンチ』（田口マネの話）になった。

近藤のシャープな動きに、飯田籏野のパワーが加わったのは、特に大きい。単調なきらいのあった飯田のシュート力が巧者のアシストで活かされるようだと戦力はさらにあがる。GK福本の好守は相変らずで、控えの下里も進境を示している。

新星という名にふさわしい活躍を見せた三景は江名、尾形、榊らに今年は高梨、内藤の明星高コンビと山原（佐野工）河原、桃井（中京高）工藤（大分商）と将来性のある若手を加え、チーム力に厚味が出来た。ダークホースから〝優勝候補〟へはっきり歩を進めたといってよいだろう。

選手不足から低迷していた千代田印刷機製造は中大からGK竹下以下、城、梅崎、山中を迎え、青木、佐久間、近藤らとともにカムバックの態勢を完全に整えた。キャリア充分の選手ばかりだけに手強い。竹下と福本（大崎）のナンバーワン争いも今シーズン話題の一つだ。

富士製鉄大きく躍進か
常盤工業は山田が加入

注目されるのは富士製鉄（旧・東海製鉄）。部員40名という大世帯を誇り、昨年の主力からはベテラン鷲野が抜けただけ。高橋、日光、黒岩ら若さにあふれた選手は、すっかり自信をつけており、今年もっとも成長が期待されるチームだ。

新人も早川、横江（名城大附高）、竹中（岩国工）と好素質を持つ選手ばかりで早川はすぐにも第一線に登用されよう。

トップクラスが揃った東海地区だけにここで一発当てれば、一気に全国最上位へとび出してくるだろう。

すっかり上位チームとしての安定感を身につけた常盤工業は、西ドイツ選手団を驚嘆させたテクニシャン山田（芝浦工大）を加えた。

強打高橋の成長があるだけに吉金、鳥村、大野らの攻撃陣はいっそう鋭さを増そう。新人・中板（中京高）も使える。GK渡辺も健在。

住友化学菊本（愛媛）は、大崎と対戦のたびにその差をつめ、チームのムードも熱っぽい。

戦力的には公文が退陣しただけでエース加藤をはじめ長嶺、神代、落海、白石、松井、GK季原ら不動の布陣である。神代が長足の進歩をとげ、白石の技巧的な動きもいい。攻撃の巾はさらに広がっていると見てよいだろう。

老巧・北山、上田の渋いプレーもこのチームになくてはならない。新人は金剛（井波高）坂谷（松坂工）五味（岡谷工）の三人。金剛は戦力となろう。

大崎を除く東日本の各チームは「まず住化を」という目標をたてているといわれる。大崎を追う一方で、追はれる立ち場にもなったが、それをどうのり切るかもみものだ。

上位狙う日進商会ら

実業団球界の拡充は、こうしたトップチームの増強よりも、むしろこれを追うグループの成長にあるといってよい。

「新人の補強を会社側でも認めてくれることになりましたよ」と話してくれる各チームのリーダーたちの顔は実に嬉しそうだ。

今シーズン大きくステップしそうなのは米沢、村田、永嶋に正本（法大）を加えた日進商会（神奈川）。学生界の代表的ゲッター近森（芝浦工大）ら4人の新人と若宮、川岡らで3年計画のスタートを切る日新製鋼（広島）。大下とGK南（宗形製作所から転入）中

心の新メンバーに切り替えた本田技研（三重）。その本田から県内の王座を奪いとった三菱油化（三重）。選手層をいちだんと厚くした日本碍子（愛知）と丸善石油（和歌山）。国体を控え力をつけている北陸電力（福井）。試合運びに定評のある富士レジンと川崎車輌の兵庫勢。シーズン緒戦の中国選手権に快勝、最上位への復帰を狙う三菱レイヨン大竹（広島）などであろう。

また、日本鋼管福山（広島）宗形製作所（大阪）静岡日野自動車（静岡）安田生命（東京）原子力研究所（茨城）などもベテラン中心の編成ながら悔れぬ布陣だ。

一方、新進チームとしては日立製作所（茨城）日本発条（神奈川）金沢市役所（石川）大同製鋼、タヨシ産業（愛知）、大阪ガス（大阪）、京都信用金庫（京都）、武田薬品光（山口）などがどこまで力を伸ばしているか興味である。

活発な県実業団組織を持つ神奈川、愛知、山口から毎シーズン必ず新鋭チームが飛び出してくることは関係者の努力の現れといってよい。

自衛隊球界では、今年も自衛隊勝田（茨城）が堅実な活動を示そう。管区内大会を開くなど熱意充分な舞鶴海上自衛隊の進出も期待できる。

大阪イーグルスが本命か

教員界

埼玉教員、スワロー兵庫、岐阜教員らの肉迫はあったが、去年も大阪イーグルスの独り舞台といってよかった。

青木、北岡、加藤、松尾、ＧＫ島崎らの試合巧者ぶりは相変らずで、今年は福井、樫塚（ともに日体大）を加えている。全日本教職員7連勝、国体3連勝を狙ってやはり本命に推せる。

このほか、前記三者に岩手、東京桜友会、茨城、静岡、福井、山口、福岡、大分、熊本などが強そう。

各チームとも、いわゆる〝大会用〟の寄り合い世帯のため、チームとしての練習量がその消長を握るカギになっているが、私費を投じあって西独戦を主催した大阪イーグルスや東京桜友会などをみても判るようにメンバーの情熱はどこもたいしたものだ。

全神奈川、寝屋川クらが有力

クラブ界

実業団の明かるい前途に比べてクラブは悲観的な材料ばかりである。

国体をクラブだけに開放するという意見も、現状では机上論の域を出ていない。

30年の球史を支えて来たＯＢ（ＯＧ）の情熱が消えてしまうことはないだろうが、全日本の最上位でフットライトをあびるチームはもう出てこないであろう。

しかし、去年は精いっぱいの健斗を見せた。全国大会では国体で全神奈川が2位となり、全日本選抜には一般のクラブチームとして、協会推せん制後初めての出場を遂げた。また、夏の全日本総合では6クラブが地域予選を勝ち抜いて来ている。

今年は前述のように実業団の増強でクラブには暗いデーターが多いが、トップチームとして活躍が期待できるのは全神奈川、氷見ク（富山）中京ク、菊松会をＡクラスに以下桜丘会（愛知）清商ク（静岡）、塩山ク（山梨）、伏見ク（京都）、三国ケ丘ク、桃蔭ク、寝屋川ク（大阪）、徳山ク（山口）あたりにすぎぬ。

全神奈川は、特異な編成だが、15年近くもこのシステムを採る神奈川協会の見識と、県内各チームの理解・協力はみごとだ。

寝屋川クは木野、北村の立大ＯＢと大西（東京教大出）を加えて一挙に上位の力を備え、1月の大阪室内では優勝を飾った。この三人は今年のクラブ界の〝大物新人〟といえる。国体でのダークホースぶりが待たれる。

このほか室蘭クと、伝統の函館勢（北海道）、盛岡商友会（岩手）東北学院大ＯＢ会（宮城）、清水橘ク（静岡）、奈良ク（奈良）、高松一高ＯＢ（香川）、熊本ドンキーズ（熊本）がまとまりのある動きを見せよう。

異色のクラブとしては秋田市農協（下北手出張所）、岩手医大教員ク、岡野愛球会（福岡）らの職場をベースにしたチームがあげられる。

〝別格〟のクラブとして全立教（東京）がある。現役（立教大）勢に安達（全神奈川）、江名、尾形（ともに三景）、木野、北村（ともに寝屋川ク）が加わるもので、全員が揃えば、国内最強布陣といっても過言にはなるまい。

余談になるが、かってはこうした現役プラス若手ＯＢによる東西の大学系が全国の最上位に名を連ねたものだが、今は全立教と中京クぐらいになってしまった。実業団、教員界拡充のこれも一つの余波といえるだろう。

女子展望（実業団を除く）

○……実業団（展望は前号）を除いた女子の話題はやはり学生界ということになるだろう。

なかでも昭和36年秋、関東学生リーグ復活以来6年間61試合（公式戦）に連勝している日体大（東京・関東）の記録がどこまで伸びるか、あるいはいつ、何校によって阻止されるかが焦点である。

日体大は、去年のメンバーからエース北口とチャンスメーカー、ＧＫ明神の三人を失ったのが痛い。川口、沢谷、中村、津熊、原、ＧＫ小野里らで新しいチーム造りに懸命だが強肩北口の抜けた穴は大きい。

○……対抗の東京女体大（東京・関東）はリーダー岡本を欠いただけで熊谷、中島、浅見、ＧＫ千明らが残り、川井、関の花巻南高優勝コンビと高橋（秋田和洋女高）、姫野（大分東高）ら高校界の有望選手も多数入学して大いに意気があがっている。春の関東学生リーグで宿願を果すようだと、今シーズン学生界のタイトル独占の夢実現も難しくはない。

○……東海でしのぎを削る中京大と中京女大（ともに愛知）も、成長のあとはうかがわれるが、関東二強に比べると迫力に欠ける。

学連対抗実現などのニュースが刺激になってはいるようだがいっそうの精進を望みたい。個々の選手では中京大のエース森と、中京女大のＧＫ北岡の二人が断ぜん光る存在である。

このほか、日女体大（東京・関東）、松阪女短大（三重・東海）も熱心な活動をつづけているがチーム力はもうひとつ。パッとしない。一つのキッカケさえつかめば、自信も出てくるのだが、そ

れがなかなか難しいといった状態である。

○……全日本学連では、3月の全国会議で、女子のレベルアップと加盟校増加を重点施策として打ち出したが、そのやさき、国士舘大東京学芸大両校の関東学生欠場というニュースが入った。残念なことである。

強化問題にしても、学連同士の対抗戦のほか、積極的に実業団と交流する企画を推進さすべきではないだろうか。

情熱で支えるクラブ

クラブ界は淋しいの一語につきるが、奮起を期待する方がムリな現況だ。ブロック大会などをのぞいてみても、陽にやけてたくましくしまった実業団チームに対して、まっ白な手足のクラブの選手たちを見ると、それだけで〝勝負あった〟という感じ。「あのこたちは熱心だなァ」という言葉が、今のクラブに寄せられる唯一無二の表現である。

○……全県的な編成でせめて国体に出場をはたし、上位に食いこもうとする斗志は全大阪、全岡山、全群馬、全福井といったチームの出現にみられ、今年はさらにこの傾向が強まろう。

個々のチームで水準にあるのは室蘭ク（北海道）、全和洋（秋田）、涌谷OG（宮城）、栃木ク、吉原ク、城北ク（静岡）、高岡女OG（富山）、徳山ク（山口）、山陽女ク（広島）、高知ク、愛媛クていどを数へるにすぎぬ。

高校界展望

○……将来にはオリンピックを、身近には日韓交流再開が噂されるなど高校界を力づける目標が並び、しかもシーズン毎に地域差がカゲをひそめていく姿は、まさに前途洋々だ。

また、選手たちの体格のよくなったことは、プレーの高度化につながっている。一般女子の試合時間が25分と決まった時それならば高校男子を一般なみに30分ハーフにしようという声が一部からあがったのもそうしたひとつの現れとみてよいのではないだろうか。

○……地域差はもとより各校の技術差がなくなる一方なので、シーズン開幕直後の展望ははなはだ難しい。

関係者の話、新人戦の結果などを集めて、ごく大ざっぱに有力校を展望したい。

まず男子では、明星（東京）の3年連続ダブルクラウンなるかが焦点だが、去年の主戦メンバーが残らず卒業した。『いかにして優勝校の面目を保つかで精いっぱい』という高橋監督の言も控え目ではなさそうだ。

しかし、栄光の伝統をさらに高く築きあげようとする新メンバーの努力はやはり大きく評価しなければなるまい。

○……東日本で有力と伝えられるのは函館工を中心とした北海道勢、古川（宮城）、盛岡一（岩手）、聖光学院（福島）、麻生（茨城）、桐生工（群馬）、中大附属、神代（東京）、相模台工（神奈川）、塩山商（山梨）、清水商（静岡）に、桜台を筆頭とする名城大附属らの愛知勢だ。

一方、西日本では昨年の準優勝校で、早々と全日本高校出場を決めた広（広島）をはじめ添上（奈良）、那賀（和歌山）、滝川（兵庫）、佐野工（大阪）、洛星（京都）の近畿勢、下関中央工（山口）、新居浜商（愛媛）、坂出工（香川）、境（鳥取）、追手前（高知）、香椎、明善（福岡）らといったところのようだ。

○……女子は、実業団あるいは学生といわゆる上へつながるコースが出来たため、その質的向上はめざましい。スケールの大きな選手も数多く見られるようになった。

レベルアップがめざましいのは東北・北海道地区で昨年の全日本高校では花巻南（岩手）——室蘭商（北海道）一昨年は秋田和洋——花巻南優勝を争ったのは周知の通りである。そして、昨年は高校優季選手15人のうち8人を両地区で占めた。女子選手の宝庫は九州、近畿、東海、北関東などから完全に北へ移ったといってよいだろう。

○……有力チームにあげられるのは2連勝を狙う花巻南以下紋別北（北海道）、秋田和洋、涌谷（宮城）、小高農（福島）、水海道第二（茨城）、栃木女、高崎市女（群馬）、川崎（神奈川）、名女商、高蔵女商（愛知）、清水商、吉原、静岡城北（静岡）、津女子（三重）、小諸商（長野）、小松市女（石川）、明徳商（京都）、東大阪（大阪）、真備（岡山）、山陽女（広島）、明善（福岡）、大分東（大分）、菊池農（熊本）といった各校のようだ。

○……ともあれ、高校界はこのところ波乱が相次ぎ、予想すること自体が無意味とさえいわれる。

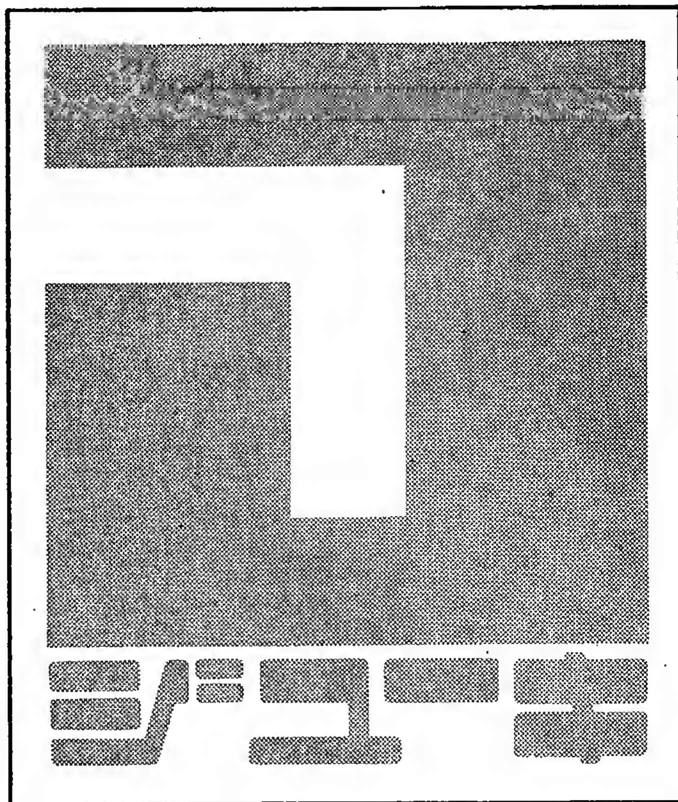
盛夏の全日本高校選手権めざして投げ、走る若い力は、次代日本ハンドボール界をささえる柱なのだ。いっそうの精進を期して待つものである。（おわり）

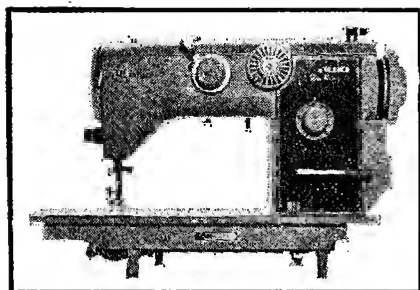
【訂正】前号5頁「展望①」の三菱鉛筆の頃で小田島選手を新人のように書きましたが八重樫（花巻農）選手の誤りでした。

全日本女子の公開練習

第4回世界女子7人制選手権に出場する全日本女子代表チームは5月19、26の両日名古屋の愛知県体育館で開かれる第4回東海実業団選手権で公開練習を行なうことになった。

ミシンはマークで
お選び下さい





*HZD－956*型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社

本社工場　東京都調布市国領町８丁目２番地ノ１電話（480）1111番（大代表）

日本実連の新理事決まる

全日本実業団連盟では、新執行部の人選を進めていたが、このほどまとまり、3月30日伊東で初会合を開き次のように発表した。また、この席上、懸案の「日本リーグ準備委員会」を発足させることになり、新理事陣から3人の委員（本誌5頁参照）を選んだ。

このほか、同連盟の今後の活動を活潑化するため新しい企画を積極的に開発し、実業団球界の拡充へつとめることを申し合せた。

なお、数原洋二氏に代って田中滋章氏（名大出・タヨシ産業）を日本協会派遣理事とすることも決めた。

【新任理事】▽理事長　浜田猪三郎＝既報▽副理事長　平出一（関東実連理事長・日進商会）▽理事　隅田正彦（大阪協会評議員）、近藤金博（東京協会常任理事、東京重機監督）、竹野奉昭(大崎電気男子監督)、江名英彦（三景）、進藤雄彦（日藤商事）池田鉄哉（三菱・鉛筆監督）、岡部正文（日本鋼管川崎）

▽日本協会派遣理事　古賀健一郎（留任）、田中滋章（新任）

なお、各理事による職務分担は次のようになっている。▽総務（進藤、岡部）▽技術（竹野＝男子、池田＝女子）▽審判（近藤、江名）▽財務（古賀）▽普及（田中）▽規約改正(平出)

関東リーグを開催か

新しいブロック大会の一つとして「関東リーグ」の開催が検討されている。

全日本実連理事の進藤、竹野、平出氏らによって企画されているもので、関東地区の有力実業団によるリーグ戦とするか、関東学生の上位校や有力クラブチームも参加させるような規模の大きいものにするかは未定だが、出来れば6月下旬か7月上旬に第1回大会を開きたい意向である。

このような企画は、サッカー界が、関東地区の8チーム（クラブ4、実業団4）で、昨年度から2回戦制のリーグ戦を前・後期各7週間の日程ですでに実行している。

日韓高校交流今夏に再開か
韓国側がハンドボールなどを要望

三月末、来日した韓国（大韓体育会会長）の閔寛植（ミン・クワンシック）氏は、日本体育協会関係者、新井全国高体連理事長らと会い、高校生の日韓親善競技会の復活について話しあった。

日韓親善高校総合体育大会は、昭和41年に日本で第1回大会を開く予定だったが、北朝鮮技術者の入国を日本政府が認めたことで、これに反対する韓国側が、同競技会をはじめ日韓のスポーツ交流を停止していた。

閔会長は、今回の会見で、日韓高校スポーツの再開を要望、韓国側の意向として『今夏8月10日頃からソウルで両国の総合競技会をハンドボールなど13種目にわたって実施したい』と申し入れた。

これに対して、日本側は、4月3日の体協理事会でこの問題を協議、基本的には異論はないものの本年度は交流費の計上が充分でないため韓国側の希望する13種目をすべて行なえるかどうかは判らないとしている。詳細については、高体連や今後各競技団体と連絡して決めることになった。

ハンドボールの日韓高校交流は昭和37年8月に全日本高校男子が訪韓、38年11月には韓国高校男子が来日、これまで二度開かれており、40年夏には第3回として全日本高校男女が遠征する予定だったがとりやめとなり、以後交流はとだえている。

なお41年に日本で開かれる予定の第1回日韓親善高校総合体育大会には、ハンドボールは実施種目に加えられていなかった。

荒川理事長の話、韓国のハンドボール協会からも日本協会あてこの計画が実現されるよう期待するという電報がとどいている。

両国ハンドボール界の結びつきは深いが、もう5年近くも往来がない。韓国ハンドボール界の成長を知るためにもなんとかして高校の交流を再開させたいと思っている。

ミュンヘン、史上最高の21競技を実施

ミュンヘンオリンピック組織委員会は、4月19日、一九七二年（昭47）のミュンヘンオリンピックはハンドボールなど21競技を行うと発表した。

21競技が行なわれるのはオリンピック史上はじめてのことである。

同大会は、8月26日は開会式、9月10日閉会式の予定。

なお、ハンドボールがオリンピックで実施されるのは一九三六年（昭11）のベルリン大会以来36年ぶり2度目のことだが、男女とも行なわれるかどうかは判らない。

東北宗形に女子チーム

大阪に男女チームを持つ宗形製作所は、このほど福島県（福島市）の東北宗形製作所にも女子チームを発足させた。陣容次のとおり、

▽監督　平川憲甫（芝浦工大出）
▽コーチ　吉川徹(桃山学院大出)
▽主将、木幡ミツイ（小高農）、
▽選手、伊賀、永岡、日下、木幡ナヲ子（以上小高農）、渡辺スイ子（本宮）、渡辺トモ子（緑ケ丘）太田（東大阪学園）

新連載・技術教室 ①

基礎とはなにか…………

村田　弘
（日本協会技術委員）

ハンドボールとは何か——それは『試合に勝つことである』。

勝つために、最も重要なのは基礎である。

そして「勝つこと」「基礎」の二点は、スポーツといわずあらゆることに土台となるものであってその重要なことはいうに及ばない。手を抜いたり、無視したり練習を怠ってはその分野の成功はあり得ない。

ハンドボールに於ても然り体力の強化も技術のマスターも根性の植えつけも試合の勝利もすべて基礎にあるといっても過言でない。基礎の修得は高校時代である。将来はこの時代が中学生時代に移る。その時こそ、日本のハンドボールの一大飛躍が叶え得るだろう。高校時代に修得した基礎はその選手の将来をのばす原動力となるものであるからおろそかにしてはならない。猛練習によりしっかりしたものを築いておかねばならない。基礎とは永久のものである。よく大会が終ると必ずといってよいぐらい基礎体力に欠けるとか基礎技術の練習が不足している基礎を知らないなどとの戦評を見たり、聞いたりする。それだけ重要なものであるが、練習に不足していることを指適しているのである。要するに基礎の重要性を知りながらともするとマンネリ化にともない、軽視する傾向にあるから今一度高校生も指導者も真剣にこの問題に取っ組んでほしい。現在高校生の技術向上は年々著しいものがある。これも基礎的練習の向上が原因の一つに挙げられる。然し、最近大学・一般の優秀なチームの技術をまねる傾向が多い。彼等がどうしてそこまで到達したかを知らないで小手先だけの技術を見習うことは危険である。まず基礎を完全にマスターして自分のチームに最も適した技術を身につけるべきである。その上で優秀な技術を参考にすることも大いに必要となる。基礎の不足からくる怪我の多いことも知らねばならない。試合に勝つことも最後は個人のレベルアップである。優秀な選手とは立派な根性の持ち主で秀れた肉体能力を有し、ボールコントロールがよく、又正確で強力なシュート技術を含めた基礎的技術の能力に秀れているものである。

ハンドボールの基礎には、精神的、肉体的、技術的、試合的問題が挙げられる。

精神的基礎

体力、技術の向上も試合に勝つこともまず気構えである。中途半端な心構えではろくなものができあがらない。強いチームの試合に対する勝利への執念もすべてそうである。その点、高校生の気構えはあますぎる。もっと勝負の世界の厳しさを知らなければいけない。

昔の諺に「好きこそものの上手なれ」という言葉がある。もっとハンドボールを好きになれといいたい。高校時代は遊びなどいろんなことをしたいだろうが、そんなことに負けないで、ただ一筋にボールを愛し、ボールに打ちこむべきである。根性とはハンドボールが好きであらゆる面に於て責任の全うできることである。これも、練習によって培われるもので、気力が充実し、根性のある選手が体力技術を身につける要素をもっているといえる。

肉体的基礎

まず「体力づくり」であるが、試合時間中走りまくり、動き廻ってもへばらない体力を持ちあわせることが一番大切である。如何に秀れた技術を持っていても、試合の途中にへばってしまえば、それを発揮することができず、相手に乗ずる隙をあたえ、勝利からは見放なされる。高校生はこの点よく考えねばならない。技術も大切だが、その前にまず体力づくりが先決問題である。

体力の要素である「スピード」「パワー」「スタミナ」を充分備えるためのトレーニングとハンドボールの適応運動を実施する必要がある。トレーニングは科学的に計算してハンドボール特有の適応性を求め、合理的に行うべきである。練習は集中的は行うことも必要だが、毎日繰り返した練習もやらねばならない。又あらゆる方面からも取り入れるべきである。練習している種目がどんな強化補強に必要でやっているか、又自分がどんな面に不足しているかをよく知りやるべきである。やったからといって急に効果の現われるものではない。長い期間をついやしてこそ、その効果が現われるものである。この基礎体力が土台となって、技術が築かれるのであるから体力も技術も綿密な計画を立て、実施しなければならない。

技術的基礎

いかに秀れたコンビネーションプレーも又秀れた個人技術を持つた選手でも、やはり基礎技術がしっかり身についているからこそ発揮できるのである。試合に勝ち、試合を面白く楽しいものにするのも基礎技術に忠実なプレーであることを再度認識してもらいたい。基礎技術の練習は地味で面白くはないが、反復練習によって、体で憶えなければならない。よく基礎練習を見ていると一つのことができあがらないのにすぐ次の練習に移っている、せっかくでき上りつつあるのをみすみすつぶしてしまっている。特に近頃は試合が多く練習が試合本位に走りがちで基礎練習に時間をついやすのが少くな

なっていることは考えるべきである。

ハンドボールの基礎技術はボールコントロールでありシュートを決めることだ。この技術こそ、基礎技術の出来上りを示すものである。

プロ野球の選手でさえも暇さえあれば打撃の基礎である素振りを盛にやっていることを聞くがプロでも然り、ましていわんや高校生は基礎の重要性を知り練習を怠ってはいけない。

指導者から次のようなことをよく聞く「練習ではうまくいくが試合になるとうまくいかない」と。それは基礎が死んでいるのを指適したい。練習のときに敵を仮装しないでやっているから練習と試合とで勝手が違うのである。いつどこでも絶えず敵を仮装し意識して練習をしなければ生きた基礎練習とはいえない。

技術にはすべて理論がともなうことを忘れてはならない。基礎を自分のものとして立派に確立するために練習をとことんへばるまでやって自分のものを作り上げるべきである。楽な練習をやっているようではいつまでたっても身につかないばかりかどんどん人に追い越されてしまう。基礎練習は苦しいもの辛いものであることを体で感じた人こそ基礎を身につけた人といえる。

試合の基礎

試合には自分達のもつすべてを発揮しベストを尽して堂々と戦うことである。監督、コーチ、選手が完全に調和をはかり、味方を知り、相手をもよく知って作戦を立てるべきだ。ハンドボールのルールブックの概要に記せられているが「ハンドボール本来の姿はスピードである。そして攻撃から防禦へ防禦から攻撃への切り替えの早さが勝利への重要なポイントになる」即ち敵ボール、防禦、味方ボール、攻撃の変化のスピードだ。そしてスピードとはランニングだけでなくプレーの展開、判断力、作戦とあらゆる方面をいうのである。高校生はまず速攻でポイントをあげることが勝利への近道である。試会では走ればへばらない。走らないとへばることを心掛ねばならない。攻撃活動、防禦活動で個人が占める位置によってそれぞれ役目が違うし、又その役目を充分はたさねばならない。防禦に於て防禦のミスが得点に影響することが大である。逆によい防禦のできたときはよい攻撃ができる。「攻撃は最大の防禦なり」といわれるが攻撃の基礎は防禦であることをよく知ってほしい。

試合のカンである判断力も猛練習によって体で憶えなければならない。又試合中によくいうあせるとは気持の問題であり、あわてるとは動作の問題である。

最後に基礎の重要性を知り練習のための練習でなく試合に勝つための猛練習に励んで貰うことを望んでやまない。（完）

今月号から「技術教室」欄を設けました。高校、中学生を対象に球界の定評ある指導者のかたがたに適宜執筆していただくつもりです。御愛読下さい（編集部）

主なハンドボール指導書（本誌調べ）

ハンドボール指導書に関する問合せが本誌編集部に多い。国内で刊行された主なものは次の通りである。（※印は11人制中心。著者のあとは刊行年月と出版社名）。

※「ハンデバール」（附ヴァレーボール）
出口林次郎著、昭３、日本工人倶出版

※「送球競技指導法」
池上金治著、昭16、目黒書店

※「ハンドボール」
池上金治著、昭25、金子書房

※「ハンドボール練習法」
東京教育大送球部編、昭25、妙義出版社

※「ハンドボール」（体育シリーズ）
的場益雄著、昭28、杏林書院

▽「ハンドボール」（旺文社スポーツシリーズ）
的場益雄、外山准二共著、昭31（初版）
的場益雄著（改訂版）いずれも旺文社

※「ハンドボール」（学校体育シリーズ）
学校体育研究同志会編、昭33、柴田書店

※「写真図説ハンドボール」
宇津野年一著、昭33、逍遥書院

▽「ハンドボール入門」
高嶋冽著、昭34、ベースボールマガジン社

▽「ハンドボール」（体育図書館シリーズ）
的場益雄著、昭34、不昧堂

▽「コーチ学・ハンドボール編」
宮本酉嗣著、昭39、逍遥書院

▽「ハンドボール教本」
宇津野年一著、昭41、ベースボールマガジン社

▽「図解コーチ・ハンドボール」
高橋健夫著、昭42、成美堂

地域防御の基礎は対人防御の中に

訳　藤本　強
（日本協会常務理事）

前回からいわゆる戦術編に入った。前回と今回で守備の戦術について述べる。前回は守備の戦術の中でも、対人防御について述べたが、今回は7人制ハンドボールで現在もっともポピュラーな守備の戦術——地域防御（ゾーン・ディフェンス）——について紹介していく。

地域防御といつても、個々の選手の技術がかなりあることが必要であるのは云うまでもない。なかでもフットワークは最重要な技術である。

地域防御はチーム全体の選手が集中的に、ボールの動きにつれ、それに対応する防御体形を整えていくものであり、各選手は常にボールを見るとともに、相手をも視界の中に納めておく。

対人防御と同様に相手に当っている場合には、相手がクロスした時にはチエンジをするのが通例であるが、それができないときには相手をずつとマークしていく。

ボールがないサイドの攻撃側の一人はマークしないでおいておき状態が変らない限りそのままにしておく。

ボールをもつているものに対してはすばやく間をつめ、ボールの動きを自由にできないようにする。そしてボールがパスされたならば、すばやく前の自分の位置にもどる。

守備側の選手が攻撃が始る時に位置している配置によって、以下に述べるような0—6、1—5、2—4、3—3などのフォーメーションが使用されている。

これらのフォーメーションはあくまでも攻撃側の攻撃が始まるときのものであり、相手の攻撃体形によって種々変化する。

また選手の配置は攻撃チームの攻撃戦術及び攻撃側のチームの選手の個性と味方が攻撃するときの形によって異ってくる。普通、攻撃するときにサイドに入るものがサイドを、ポストに入るものが前に出て、浮いた位置につくものが真中につくのが常識的な配置である。

選手の個性から云うと、ゴールライン中央に位置する三人はチームの中でも大きいものを置くのが良い。前に出るものは、動きの一番早いものを、サイドは小さくても動きの早いものを出すのが通例であり、セオリーにかなった配置である。

0—6防御（図1・2）

基本的にはゴール前に6人の選手が並び、攻撃側のボールをもつているものに、次々とピストンで当る戦術である（図1参照）。ボールのある位置に、特に中央にボールがある場合には、中央に厚く、個々の選手は気を配る。

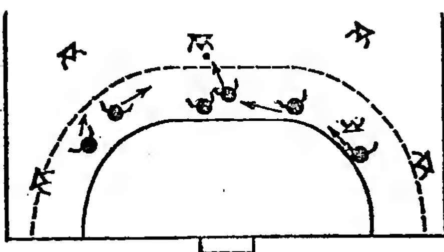
ポストに2人を入れ、サイドに深く選手を配する攻撃形の場合には、4人はゴールエリアラインに沈み、2人が前後に動き、防御する（図2参照）

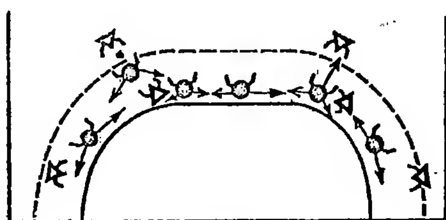
1—5防御（図3・4・5）

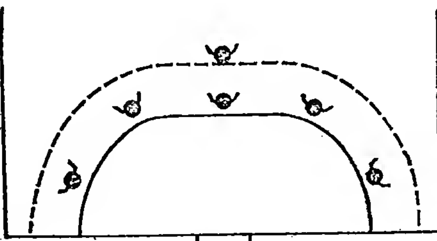
図3にあるように1人の選手がフリースローライン中央附近に出て、他の5人はゴールエリアラインについている防御陣形である。

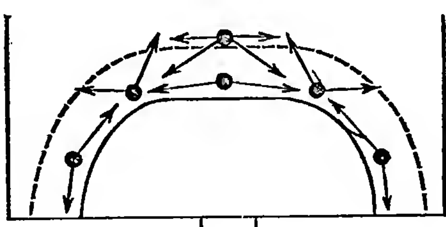
動き方は図4に示すような形の地域をカバーするようにする。

つまり、前列中央に出ているも

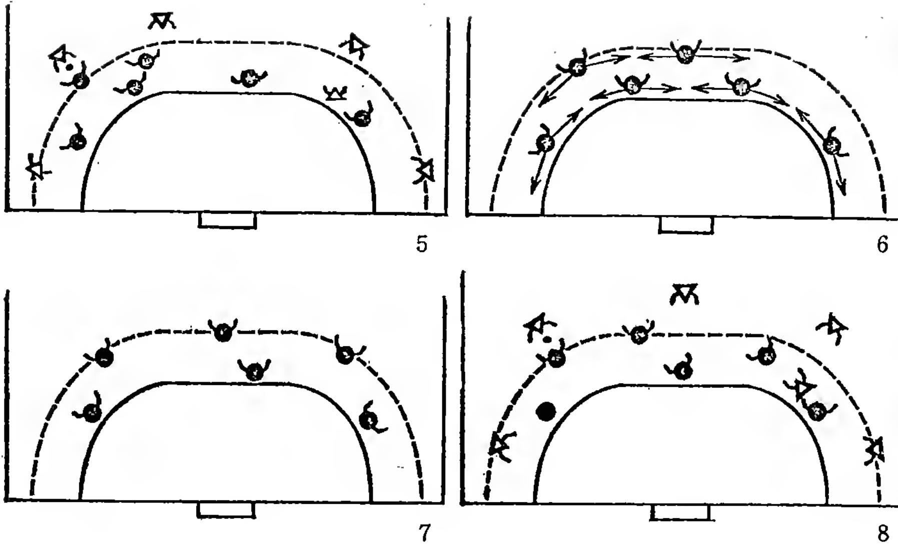

1


2


3


4

のは、フリースローライン中央付近をまず主要な任務とし、ボールが中に入ったならば、ゴールエリアライン近くまで、カバーに下ること。後列右から二人め、左から二人めの両選手はフリースローラインの45度付近からゴールエリアラインまでを主任務として、ボールの位置によって、前後して、防御の責任を果す。この位置に背の高い、前後にすばやく動ける選手を置くことが望ましい。この選手



の動きにこの防御陣形の成否はかかっているといって良いほど重要な位置である。特に相手チームにロングヒッターがいて、またポストプレーをも得意としている場合この位置の選手の前後の動きが一番困難になるからである。

サイドの選手は、自分のサイドにボールがある場合にはもっともサイドにいるものに当り、他のサイドにボールがある場合には、中央によって位置し、一番サイドにいる攻撃側の選手は視界に入れているだけで、とりたててマークしないようにする。逆サイドにボールがある場合、もつとも、カットしやすいから、十分にその機会をねらうとともに、サイドからサイドへと通すパスとでは、いち早く気づいて、カットするなり、当ったりしなければならない。

後列中央に位置する選手は、この陣形の要に当り、ボールの位置によって苦干左右に位置をかえるが、前後には、ほとんど動かないことが望ましい。位置からいって一番敵味方の動きが良く見えるのであるから、防御陣全体を指示して、動かすとともに、良くカバーをすることも重要な役割である。特に、ポストに入ってきた者のマークは重要となる。ポストに好パスが入れば、そのまま1点となるケースだけに、ポストに入っている選手のマークは重要である。

身長があり、左右のフットワークが良く、しかも良い眼をもち、カバーする能力をもっている選手をこの位置におくのが良い。

図5に実戦に於ける1―5防御の実列を示す。このようにボールをもっている選手のまわりは厚く、個々の相手にピタリとつかず、すでに対人防御のところで見たように、相手との間をあけ、相手よりボールの近くに位置していることが図からでも、良く判ると思う。もちろん逆サイドにボールがふられたなら、それに対応する形になるのが良い。

2―4防御（図6参照）

二人の選手がフリースローラインやや内側に出、残りの四人はゴールエリアラインについている防御陣形である。

前後の動きはほとんどせずに、主として、左右の動きで防御する形である（図6参照）。

前に出た二人は、ボールの動きとともに左右に動き、ボールが自由にパスできないように、あわよくば、カットするようにするので体力的にも、技術的に高度のものを要する。残りの四人は、先と同様に、ボールを中心に集り、カットしやすい体勢をとる。

3―3防御（図7・8参照）

防御陣形の中でもつとも攻撃的な陣形である。反撃に移行するのがもっとも可能な体勢であり、三人の選手がフリースローライン上に、三人がゴールエリアラインに位置するフォーメーションである（図7参照）

実戦では、図8に示すとおり、ボールのないサイドでは、やや下り気味となり、1―5・2―4防御で見たと同様に、相手との距離を置き、必ず相手よりボールに近い位置をとる。

この位置がインターセプトにもつとも都合が良いからであり、インターセプト→速攻こそ、このフォーメーションの真価でもある。

最後に地域防御について、もう一度云っておこう。ここに述べたものは、あくまでも、相手が攻撃に入る時の位置であって、その途中では、1―5→2―4、1―5→3―3あるいは0―6→2―4、0―6→1―5というように変化するし、変化しなければならない。またシュート体制に入ったならば、それをまずつぶさなければならない。

まず〝ボールを持っている者を〟が防御の鉄則である。

結論として次のことが云える。

各チームは必ず、対人防御を地域防御とともに充分に時間をかけて練習することは重要である。このことは実戦でも重要であるが、個々人の守備技術を非常に向上させることができるからである。

日本ハンドボール協会創始期の思い出（4）

松本良三

人間性

朝鮮での送球宣伝を終え、更に満州に旅したが、その行先々でいろいろな人に会った。その当時の日本は国運隆々たるものであり、まさか、数年後に、朝鮮、満州を全部吐き出すとは夢にも思わず、出先きの人々は、完全に現地に融け込み、活気にみちて、志操高く、その言動には教えられる所が多かった。

七月二十六日の晩、新京の第一ホテルに投じたのは、先に述べたが、そこのマネジャーの竹田氏は剣道三段のスポーツマンで、慶応時代には、同部の主将であった。此人の骨折りで、二十七日の晩、私の為に慶応の三田会が催された。偶々、羽黒山と組んで、当地に巡業中の前田山を交えて、一料亭で開かれた。前田山は今の高砂親方である。氏は十両の頃、腕をいため、相当の重傷であり、輝かしい未来を約せられていた氏は、憂欝であった。此時現れたのが、慶応病院整形外科の前田弘三郎博士であった。氏は関取に「必ず直してあげる」と情をこめて治療に当り、丹誠の甲斐あって、やがて傷は快癒した。関取は感激にみち、在来の「シコ名」を廃し自ら「前田山」と名乗るに至った。

斯様なわけで関取は其晩、我々の会に出て来てくれた。氏は忽ち押しよせる酔客のサイン攻めを拒け、吾々と談笑した。塾員が学生時代の追憶にふけるのを見て「先生、若い人達が過去のことを許り話していますね。」と云うのであった。文字通り、腕一本の世界に生き、自らを築き上げた氏の言葉にはうそがなく、恐れがなく、それでいて言葉の片鱗は情味あふるるものであった。真に天下の大関前田山にふさわしい人間性の美を示すのであった。

やがて、酒はまわり、一座活然とした。日本人の島国根性を難ずる者あり、又、科学の為の科学の振興を唱うる者もあり、何れも世界人としての気魄に満つるものであった。やがて、宴も終り、銀座の数倍もありそうな街路に馬車を駆って駅に向った。さらりとした大陸特有の微風に頰を打たれ「価千金」を満喫した。

11時15分、フォームを圧する「若き血」に送られて汽車はゆるぎ出した。私は見送りの人々に挨拶する為に、最後部展望車のブリッジに立った。「我々新京の者は、張り切って国家の為に働いています。どうぞ先生は人材を造って当地へ送って下さい。」是れが別離の言葉であった。今更ながら、教職の重大性を、それは単なる学問の切り売りでなく、瑕瑾なき人格の供与にあるを思わしめらるるのであった。

八月一日、大連からの連絡船、扶桑丸で内地に向った。船中、同室した人は、十数年来、満州で、綿布業に従事している人であったが、彼はこんな話をした。奉天で急行が停った時、二等車（当時の汽車は三等級別になって居り、二等車に乗る人は一般に社会的地位高く、教養ある人と考えられていた。）の窓際にかけて居た満州の一婦人が自分の荷物をそこに置いて買物に降りた。此時乗って来た一日本人は、その荷物をどけて其席を求めた。間もなく、先の婦人は戻って来たが、彼女は、前からそこに居たのだから、彼に内側の席に寄ってもらい度いと要求した。彼は応じなかった。口論の末、婦人は車掌を呼んで来て裁いてもらい、結局、彼女は元の自分の席を得た。

所が此席は、二人づつ向い合って掛けるようになって居り、此二人の前にかけていた二人は、此婦人の連れで、その中の一人はロシヤ人であった。彼は相当の年輩であったが、疲れたので、靴を脱いで、其婦人の傍に足をかけて居た。すると此日本人は靴をはいたまた、向側の人の傍に足をのせかけた。他の三人は、是が嫌なので、数回、席から出入りして、日本人がそれをよすように仕向けた。然し彼は止めなった。遂にロシヤ人が「足を降してくれ」と言った。すると其日本人は「お前だって同じことをやっているではないか。」と言った。前者は「私は土足ではない。」と答えた。少時して車掌が切符調べに来た時に見ると、なんと此日本人は「二等のパス」を有する所謂「特権階級の紳士」（？）であったという。

「ほんとうに斯んな人は、日本人の面汚しです。我々がコツコツ築き上げた地盤を此頃斯んな人が来て、片っ端から壊してしまうのです。私の店に永年使っている漢人の若者が居ますが、日本語は巧いし、信用出来るので、何でも私の代理をさせているのです。所が、是れが日本人の会社などへ行くと、往々役に立たないのです。日本人が相手にしないのです。実際、日本人は、もっと太っ腹にならなくては大陸発展なんて、出来やしません。」というのが此人の感懐であった。私は嘗て（戦前）米国へ絹の衣服地を送り度いと思って某デパートへ行った。品物を定める前に、米国へ送ってくれるかと聞いたら、送るとのことであった。そこで必要な丈け切ってもらい、代金を払い、箱に入れてもらい、いざ送り先を告げる時になって、先の店員は「当店では、米国へは御送り出来ません。」というのであった。彼は前言に対し謝るでもなく、恥ずる色もなく、その態度はむしろ周りの同僚に誇示するかのようであった。私は彼の不誠意を責めたが、相手にしても仕方ないので其儘持ち帰って、自分で郵送した。

然し、此時、私の胸に浮んだ事があった。それに耳にしたことであるが、是に似て、更に悪い場合、即ち、日本の商人の中には外国への郵送を引受けて置いて、而もその約を果さない者があるとのことである。又是れは戦後のことであるが、ある男がテレビの注文を受け、是れを船便で米国へ送ったのであるが、テレビの機械を抜き取り、その代りに石炭ガラをつめ込んで送ったのである。是れは国際的に告発され新聞などでも報ぜられた。

又、あるカナダ人が斯んなことを話した。此前の世界大戦で、ドイツからの輸入が途断えた時、カナダの一商人がドイツ製の玩具を一日本人に見せて、此通りのもの

が造れるかときいた。其日本人は、是れを引受けたが、出来上ったのを見ると、それは寸分違わぬものであった。然し其裏を返して見ると「ドイツ製」と銘打ってあった。其カナダ人は「いくら此通りと言ってもこんなこと迄注文はしなかった。日本人はこんなことをするのか。」と言って全部の注文を取り消してしまったという。

是れに関連して銘すべき一経験をしたことがある。私は嘗てパリーのルーブル・デパートで、毛皮の外套を買った。旅行中であったので、其品物を自分が乗込む船が寄港するイタリーのナポリにとどけるように頼んだ。所が店員の言うには、其船はマルセイユに寄るから、イタリーの関税を免れる為に同港に送った方がよいと忠告してくれた。然し自分は前述のような日本商人の不信に対する非難を聞いていたので、此場合、フランス人も、日本人のように輸送を怠るようなことがあると困るが、それにしても、自分の乗船地なら、何等かの方法を講じ得ると思って、ナポリへ送るように言張った。店員は怪訝な顔をしていたが、其品物がナポリの船に着いた時に、私は誠にその不審は、尤もだと思った。品物が無事手元にとどいたのは勿論、その荷造りの完全さ（毛皮が湿気を受けないように内側はブリキ張りのもの）其の他、保険、関税の手続に至る迄、懇切丁寧、些の遺漏なく、真に行届いたもののやり方であった。私は感謝の念が湧くと共に、己れを以て他を律したことを熟々恥かしく思った。

音楽評論家の大田黒元雄氏は昭和25年8月28日の夕刊読売で「西洋納涼譚」の題下で是れと等しいことを述べている。

1939年に、ヨーロッパの国際情勢はすこぶる険悪になって来ていた。そこで北アイルランドに住む一人の床屋は、いまのうちに商売道具の剃刀を補充しておこうと思いながら、為替を入れてゾーリンゲンの刃物屋へ注文の手紙を出したのである。ドイツのゾーリンゲンが刃物の本場として世界的に有名なことは言う迄もあるまい。ところが、この手紙を出してから三日後に、第二次大戦がはじまった。従って剃刀はもう来ないものとあきらめてしまったところ、それから10年経った1949年の11月に、彼の手元にドイツからの小包が届いて来た。開けて見ると、注文したことさえほとんど忘れてしまっていた剃刀がはいっていた。しかもそれにはこういう文句が添えられていたそうである。「御注文の品物御送付方大延引の段、誠に申訳無之候。」

東京女子大は新渡戸稲造氏の創立にかかる。然し、それに揺ぎなき礎石をすえたのは、第二代の総長安井てつ氏である。同校の国文学教授青山なを氏の筆になる名篇「安井てつ伝」がある。其中に見る安井氏の御言葉を玆に引用する。

「ある日ロンドンの電車にのりました。私は、車掌さんに日本でいえば五十銭位に当る銀貨を渡し、お釣と切符とをもらいました。おつりと切符とを比べてみますと、おつりがたりません。大分待って他の新しいお客さんが傍にのったので車掌が来ました。私は先刻のおつりと切符とをみせ『さっき私は五十銭の銀貨をあげたがおつりがたりません。間違いはありませんか』と静かに尋ねますと、車掌さんのいうのに『違います。あなたは二十銭下さいました』というのです。私は非常に憤慨しました。

外国人である為に斯様にされるといったような気持から、何だか憤慨してしまって云いました。『私は前にイギリスで勉強していたことがあります。イギリスの人は実に正直だ、正直とゆう事がイギリス国民の誇るべき性質だと始終きいており、また尊敬して居ました。あなたは、私が外国人であるから、おつりを胡麻化しても私にはわからないと思っておられるかもしれません。私は前にもこちらにいた事もあってイギリスのお金の勘定は決して間違わないつもりです。』と申しました。沈黙の時が続きました。その時私の傍に一人のイギリス婦人が座っていましたが、車掌に向って『私はこの方が五十銭の銀貨を確かにあなたに渡したのを見ました。あなたは偽ってはいけない。五十銭に対する正しいおつりをこの方におあげなさい』と云いました。車掌さんは黙って足らないおつりを出しました。私はその婦人を偉い人だと思いました。私は外国人である。車掌さんは同国人である。同国人が偽りをいって外国人から詰問されているのに、外国人の肩をもつとゆうよりは、同国人の偽りを矯め直そうと、私の又その人の救い手となって立ったのであります。私はその婦人の名前を知りませんが、その正しい精神に非常な敬意を表したのであります。」

外国とか、外国人ということが考えに入って来ると、平気で無責任なことをするのは、ある程度どこの国民にもあることである。然し日本のように一般に人心の解放が不徹底な場合には、ものの判断にややともすると普遍的な人間性の働きがにぶり、不必要に国とか、人種的観念にとらわれ、その倫理観は無意識の中に低劣となる。日本はつとに道義の国として、又日本人は遵法の民として知られている。然しその思惟の背景は余りにも狭い。かの日本人が自負する「義理人情」にしても、それはただ限られた範囲の人の間に劇的に行われるのみで広い世界に対しては「不義理、不人情」に陥り勝なのである。

囚われた軍国主義が日本を今日の難局に追い込んだ事は、国民各自、皆よく知っている。然し、他の一面、今猶、思想や制度を過信して自らを改めようとしない日本人の他力本願には度し難いものがある。慶応大学の名誉教授髙橋誠一郎氏はその論文「人間完成」の中で「およそ一切の物は、ことごとく皆、労働を対価として売られます。私どもはただに外界の自然に対してのみでなく、自分自身の上にも、また労働を加えていかなければなりません。真の社会的理想の実現は社会民衆の内心的改造を予定するものです。社会的病患の根源は、深く人の心の内部に潜在しています。」と説かれ、ゲーテの言葉「単に吾人を改良せよ。しからば、一切のものは必然に改良されるであろう。」を引用して人を行路の大道を示される。

およそ日本国民たるものは自然法的論理を規調として、自らの人間性を涵養不動のものたらしめ世界いず地にあるも、又如何なる人に対するも、又、更に如何なる事件に遭遇するも、天地に俯仰して恥じざる誇りによって己れの行動を律することそ自らを、延いては社会国家を救う所以である。

連載（第3回）

ハンドボールの歩み　≪世界選手権編③≫

幸運なハンガリーの初優勝

—予選で抽せん勝ち—

第3回女子7人制ハンドボール選手権大会

1965年11月7日〜13日
於・西ドイツ

第2回選手権以後、女子の7人制の試合は益々盛んになってきていた。これを反映し、前2回の大会の参加9チームが一挙に15チームと多数になった。

場所は西ドイツ、前回参加した9ケ国は優勝のルーマニアを筆頭に、全部の国が参加し、それに加えて、東ドイツ、オランダ、アイスランド、ノルウェー、米国が新参加し、スウェーデンはまた返り咲いた。

予想と異なり、多数の参加国となり、また本大会のチーム数が8チームになったために、予選が行なわれることになり、その半数近くの国々が予選でふるわれることになってしまった。

予選なしで参加できるのは、前回優勝のルーマニア、開催国の西ドイツとだけであった。あとの六つの座を13の国々で争うのであるから、きわめて困難な予選であった。

世界選手権規定により、上位チームはシードされることになっているため、前回の2〜7位のチーム同志は争わないことになり、次の組み合せで予選が二回戦方式によって行われることになった。

デンマーク — アイスランド
チェコ — 日本
ユーゴ — 北米合衆国
ハンガリー — 東ドイツ
ソビエト — オランダ
ポーランド — スウェーデン
　　　　　　ノルウェーの勝者

日本もチェコという強敵を相手に予選を行なわなければならなくなり、チェコと日本でそれぞれ一回ずつの試合を行なうよう申し入れたが、チェコに受け入れられず大会前にチェコで二回の試合を行なった。

予選の結果は次のとおり

▽予選第一回戦

ノルウェー	2勝	8−7 7−6	スウェーデン

▽予選第2回戦

ハンガリー	1勝1敗 得失点差なし 抽選勝ち	8−6 4−6	東ドイツ
デンマーク	2勝	16−9 15−6	アイスランド
ソビエト連邦	2勝	19−6 15−4	オランダ
ポーランド	1勝1敗 得失点差	10−5 4−7	ノルウェー
チェコ	2勝	17−9 17−5	日本
ユーゴ	不戦勝		米国


決勝戦　ハンガリー対ユーゴ

予選は以上のような結果になったが、最激戦だったのは、ハンガリー対東ドイツであった。

ハンガリーはブタペストでまず東ドイツを8−6で破ったが、続く東ドイツのシュベリンの一戦で4−6で破れ、1勝1敗、しかも得失点も12−12となり、全く同じになってしまった。そこで抽選をすることになり、ハンガリーが好運を得、準決勝リーグに歩を進めた。

日本は大崎電気、大洋デパートのメンバーを中心にしたチームを組んで、チェコとの試合に臨んだが、二敗を喫っし、準決勝リーグへ歩を進めることができなくなってしまった。

ところが、ここにふって湧いたような好運が日本チームに訪れることになった。それはソビエトチ

ームが西ベルリンで行なう試合は西ドイツ国内の試合とは認められないから、他の場所に移せとＩＨＦ、西ドイツに申し入れ、それをＩＨＦ、西ドイツが反対すると、参加を取り消してきたことだった。そこでＩＨＦは予選でソ連と対戦したオランダにソ連にかわって、出場するようにとりはからったが、オランダはチーム編成が無理であると断ったので、日本に準決勝リーグ進出の機会が与えられた。

準決勝リーグは４チームずつのＡ、Ｂ両グループに分け争われることになった。

Ａグループ、ユーゴ、西ドイツ、デンマーク、日本

Ｂグループ、ハンガリー、チェコルーマニア、ポーランド

▽準決勝リーグＡ組

西ドイツ　15―7　日　本
ユーゴ　11―6　デンマーク
デンマーク　10―9　日　本
ユーゴ　8―4　西ドイツ
ユーゴ　9―5　日　本
西ドイツ　7―5　デンマーク

一位　ユーゴ3勝、二位　西ドイツ2勝1敗、三位　デンマーク1勝2敗、四位　日本　3敗

日本はいずれの試合でも、今一歩の力がなく、三敗してしまったＡグループ一位のユーゴとはやや差があったかに見えたが、これとて、勝てないという相手ではなかった。西ドイツチームとは、このあとブッパータールに対戦し、12―8で破っているのであるから、非常に惜しまれる。

▽準決勝リーグＢ組

ハンガリー　7―4　チェコ
ルーマニア　4―4　ポーランド
チェコ　15―7　ポーランド
ハンガリー　9―6　ルーマニア
ハンガリー　15―5　ポーランド
チェコ　8―8　ルーマニア

一位　ハンガリー3勝、二位　チェコ1勝1敗1分、三位　ルーマニア2分1敗、四位　ポーランド2敗1分

前回優勝のルーマニアは意外にふるわず、1勝もあげることなく敗退してしまった。ハンガリーのキーパー・ロサーマルの好守と堅いゾーンディフェンスが敗れず9―6のスコアにおわってしまった。この大会ルーマニアが調子のでなかったのは確であるが、この戦いぶりは一寸うなづけないものがあった。

このあと両グループの一位同志、二位、三位、四位の間で、それぞれ、一、三、五、七位決定戦が行なわれた。

▽決勝戦

ハンガリー　5（3―2、2―1）3　ユーゴ

この試合ハンガリーのハジュクの先制点で開始され、ハンガリーはずっとリードを保っていた。後半開始後ユーゴはラベルンヤークのシュートで3―3に追いつき、なおも、追いあげムードであったが、ハンガリーのキーパー・ロサーマルの好守のため、リードすることはできず、その間に、ハンガリーに二点を許し、ハンガリーに栄冠の座をゆずった。

ハンガリーは予選で危い星を拾い、以後順調に勝ち続けたが東ドイツの実力は高く評価されなければならない。

▽3位決定戦

西ドイツ　11（3―4、4―3、1―0、0―1、1―1、2―1）10　チェコ

第2延長にもつれこんだ試合。やっとのことで逃げこんだ西ドイツ。これで何とか開催国の面目がたったというところであろう。この試合、昨秋来日のミルタし、ミヨラーが出現している。



ハンガリーチームの表彰

▽五位決定戦

デンマーク　10（6―4、4―5）9　ルーマニア

前回優勝のルーマニアはついに六位におわった。

▽七位決定戦

日　本　6（4―1、2―4）5　ポーランド

やっと手に入れた初勝利、ただこの試合でも、後半10分には6―1とリードしていたのを6―5まで追いこまれたことは、国際舞台の厳しさをはっきりと思いしらされている。

このシリーズで日本もやれるというメドがついたことは初勝利とともに大いに喜んでよいことであった。また早川清美選手はこのシリーズ、デンマークのニールセンの11点に続いて10点を挙げ、準得点王になっていることも特筆さるべき事項である。

▽最終順位

一位　ハンガリー、二位　ユーゴースラビア、三位　西ドイツ、四位　チェコスロバキア、五位　デンマーク、六位　ルーマニア、七位　日本、八位　ポーランド

優勝メンバー

ロサーマル
シュミット
バローフ
チュセンキ
ローマニィー
イオナ
イグナスツ
ハヌス
ジャニア
ハジェワ
レンギュール

予選方式などを手直し

日本の出場は確定　世界男子７人制選手権（昭45・フランス）

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）では、このほどフランクフルトで技術委員会を開き、さきに原案をつくった一九七〇年の第7回世界男子7人制選手権大会の予選方法と組み合せ（本誌25号16頁）を手直しした。

その結果、日本は既報のとおりアジア代表として予選を経ず本大会に出場できることが確認されたが、ヨーロッパ・エリアについては大巾な変更となった。

同エリアから本大会に出場するワク数は「11」で既報の通りだがミュンヘン・オリンピックにつなげようとする同大会の予選を、一本勝負という簡単な方法で行うことに異論が出、ヨーロッパから参加を申しこんだ12ケ国を3ケ国づつ7組に分けて、それぞれリーグ戦を開き、その勝者(7ケ国)を代表とするほか、各組2位によって3カードを組み、その勝者（3ケ国）にも出場権を与えさらに、予選7組のうち1組は上位2ケ国が本大会へ進めることとして、11のワクを埋めることになった。

これによって、各国は最低4試合（1カード2回戦制）を行うことができる。

なお、アメリカ・エリアのカナダ――アメリカ戦は原案通り認められた。また、アフリカ・エリアのモロッコ――チュニジア戦は、チュニジアが棄権を申し出たためモロッコが、アフリカ代表に決まった。これで、この大会への参加申しこみは27ケ国となり、出場確定国は4ケ国（日本、チェコ、フランス、モロッコ）になった。

ヨーロッパ・エリアの予選組み分けは次の通り。（　）内は前回順位

▽A組　デンマーク(2位)、アイスランド、ベルギー
▽B組　ルーマニア(3位)、ブルガリア、オーストリア
▽C組　ソビエト(4位)、ポーランド、イスラエル
▽D組　スウェーデン(5位)、ノルウェー、フィンランド
▽E組　西ドイツ(6位)、スペイン、ポルトガル
▽E組　ユーゴ(7位)、スイス、ルクセンブルグ
▽G組　ハンガリー(8位)、東ドイツ、オランダ＝G組は上位2ケ国が本大会出場。

2位対抗戦の組み合せは（イ）A組2位――F組2位　（ロ）B組2位――E組2位　（ハ）C組2位――D組2位の3カード

この技術委員会案は8月アムステルダムで開かれるＩＨＦ年次総会で承認をうけることになる。

ステアウァ（ルーマニア）宿願の初優勝

男子ヨーロッパ・カップ終わる

ヨーロッパ各国の選手権チームによる第9回ヨーロッパ・カップトーナメントは昨年末からおよそ4ケ月にわたり22ケ国の代表によってヨーロッパ各地で熱戦を展開していたが、決勝に勝ち残ったのはステアウア・ブカレスト（ルーマニア）、デュクラ・プラーグ（チェコ）の名門チーム。優勝戦は4月7日フランクフルト体育館に超満員八千人のファンを集めて行われ、後半20分10―10から残り10分にすべてがかかるという期待にたがわぬ大熱戦となったが、ステアウァはヤコブの巧技で点差を開き、デュクラの反撃を1点におさえて逃げ切った。

ステアウア・ブカレストは初優勝。ルーマニアチームが優勝したのは第6回大会のダイナモ・ブカレストにつづき2度目。デュクラは2年つづけて2位にとどまった。

なお、2連ぱを狙っていたVFL・グンメルスバッハ（西ドイツ）は準々決勝でブカレストに一勝一敗となったが点差で破れ失格した。

▽準決勝第1カード

SC・ダイナモ・ベルリン（東独）　16（8―9、8―6）15　ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）

ステアウア・ブカレスト　16（6―6、10―6）12　SC・ダイナモ・ベルリン

2試合の得点合計31―28でブカレストが決勝進出

▽準決勝第2カード

パルチザン・ブジェロバル　17（7―4、10―5）9　デュクラ・プラーグ

デュクラ・プラーグ（チェコ）　25（13―9、12―7）16　パルチザン・ブジェロバル（ユーゴ）

2試合の得点合計34―33でプラーグが決勝進出

▽決勝

ステアウア・ブカレスト　13（7―6、6―5）11　デュクラ・プラーグ

得	【ステアウァ】		【デュクラ】	得
0	ディンカ	GK	ビチャ	0
2	ポペスク	FP	ホルバース	0
3	グルイア		サトラハ	2
3	オテレア		ハブリク	0
2	ヤコブ		ズーダ	1
3	マリネスク		ベネス	4
0	ゴーラン		カバン	1
0	ルセスク		マーレス	2
0	アルボアシア		ラゼク	0
0	デートリッヒ		ジャリイ	1
13	（3）	7MT	（2）	11

（注）決勝は1試合のみ

女子はカウナスが連勝

一方、第8回女子ヨーロッパ・カップトーナメントは3月31日ブラティスラバ（ユーゴ）で決勝戦を行った。

優勝を争ったのは、前回のは者シャルジリカ・カウナス（ソビエト）とエムポール・ロストク（東ドイツ）で、カウナスが13―11で制勝、2連勝を飾った。ソビエト代表の優勝は3回目である（詳報未着）

グンメルスバッハ敗れる

西ドイツ選手権決勝

SG・ロイタースハウゼン　20（9―6、11―7）13　VFL・グンメルスバッハ

新しい狙いの地方大会と問題点

とおりいっぺんの大会ではなく普及にも強化にも役立つような大会方式はないものだろうか——このごろよく聞く言葉である。問題点シリーズの2回目は「新しい大会の運営とその問題点」をとりあげてみた……。

▽……「リーグ・トーナメント」や「ダブルエリミネーション・システム（2敗失格制）」など、競技会の進めかたに工夫がこらされた時代がすぎて、最近は、大会の〝内容〟に検討が加えられる傾向が強まって来ている。それだけ、ハンドボール界が、成長したことにもなるのだろう。

本誌先号で、愛知協会の「愛知リーグ」実現を報じたところ、各地協会で、愛知の充実を羨望しながらも、われわれも早く愛知式にしたいという声が多かったそうだ。いかに、関係者が〝新企画〟に心をかけているかが判る。

▽……静岡協会では、昨年度から日本協会の全日本選抜〝ミニ版〟ともいうべき「静岡選抜大会」を設け第1回は成功裡に終わった。出場チームは教員、クラブ、実業団（女子は高校とクラブ）の各分野から選出している。

「愛知リーグ」にしても「静岡選抜」にしても県内トップチームの激突によるレベルアップと県内選手権の権威を高めさせようという二つの狙いを持つ。大阪協会でも学生、実業団、教員各代表による「三強リーグ」開催を検討中だ。

また、6月実施を噂される「関東リーグ」も同ようの主旨で着々準備が進められている。

▽……トップレベルと底辺の差が開きすぎてしまって〝内容的興味〟をそこなわせるのを防ぐ企画も各地で考えられている。「関東実業団選手権」（3月・横浜）の男子は、前回の上位4チームを予選ラウンドには出場させず、最初の二日間は、下位チームに存分な試合経験をつませることにつとめ好評を得た。『実力的に同じ相手だと斗志がわく。せっかく出ながら30点も開かれてイチコロではやる気がしなくなりますからね』とは、この大会に初出場した選手の弁だ。

▽……「大分市大会」のいきかたは変っている。

参加するのは登録、未登録に拘らず、文字通りどんなチームでもいい。そのためある学校からクラス単位のチームが大挙して出たり、ふだんは草野球で遊ぶ青年団グループが勇んで顔を見せるといった具合。底辺拡大には絶好だ。

▽……レベルアップのため、地域外からの参加を歓迎しているものに「東京選手権」がある。この大会は、東京協会以外のチームも自由に参加できる。腕だめしを望むなら九州でも、北海道のチームでもよいのである。『東京のチームのレベルをあげる一つの方法だと思う。

お金さえあれば、外国チームを招きたいくらいだ』とある都協会役員はいう。なかなか前向きだ。

こうしたオープン制は東京城北連盟の「親善トーナメント」やかっての「九州近県選手権」に例がある。

▽……楽しいアイデアは宮城協会が、3年前からつづけている「宮城県ハンドボール祭」だ。

今年は学生選抜——一般選抜、女子一般選抜——同高校選抜の二試合をメエイン・エベント格に5試合を行い、大会後、「新年会」を開いて役員や選手の親睦を深めている。

▽……ところで、各地の情熱にともすれば水をさすのが会場と審判員の確保、それに、いつもながら経費の捻出に難渋することだ。

新しい大会の企画はあっても、坐折してしまったり、実現に手間どるのはすべてこの点にある。

チーム側も大会が多くなると一年のうち、これとこれにしか出ないとシーズンはじめに決めてしまうところが多くなり、参加料の低額な大会や正式登録していなくても出られる大会にチームが集中してしまうことになる。

新しい企画の推進と経費捻出は地方協会の現在かかえている最も重要な課題でありながら、その妙薬が発見されずじまいにいることは、球界の宿命という一言で片づけてしまうには、あまりにも大きすぎよう——。

既存の大会に工夫を

田澤　剛

最近は、県の会合でも新しい狙いの大会をという言葉がさかんにかわされ、静岡協会でも昨年度から県内のトップチームによる「静岡県選抜選手権」を始めたのだが、地方球界で新しい企画を実現するとなると、いろいろあい路が出てくる。

経費や審判員の確保などがなかなか大問題だし、大会が多くなればなるほど、各チームの負担が増してくるのも悩みだ。それと、地方で新しい企画が育ちにくいのは全国大会が多すぎ、そのたびに予選を行い、県大会やブロック大会に気をつかうのも一因だ。ほとんど1年中試合をしている現状を脱しシーズン制を確立するのも、新しいアイデアを発芽させることになると思う。

私個人として夢に描いているのは、球界を社会人と学生の二大系統に分け、社会人部門（クラブ、教員、実業団を統括）は、9月初旬に全国一斉に市大会を開きその勝者が県大会へ、県の勝者がブロックのリーグへと進み各ブロックの勝者チームと学生部門の代表計16チームによって12月に「全日本選手権」を争うシステムだ。

また、国体は全部門とも単独チームの出場を認めず、全日本選抜は廃会したらよい。（全日本学生や全日本実業団、全日本教職員などは、開くなら7・8月に集中したらどうか。）

どの大会がいちばん権威があるのか判らなくなってしまうような大会の乱立は全国大会であろうが、地方大会であろうが、あまり意味はないだろう。新しい狙いの大会より、既存の大会の整理や工夫を考える方が現況ではむしろ急務のような気がする（静岡協会理事）

球界パトロール

富士製鉄名古屋で職場対抗開く

○……職場へのハンドボール侵透は、本誌52号でも強く要望されているが、それに応えるかのように富士製鉄名古屋製鉄所（社員数約六千）で「所内ハンドボール大会」が盛大に開かれた。

富士製鉄には、東海製鉄時代からの部史をもつ実業団チームがあり、愛知実業団リーグではすでに6回優勝、昨年あたりから選手強化にも積極的な手が打たれ、現在は40名近い部員を擁し、全国実業団でも五指に入るまでにのしあがっている。

それにつれて、所内のハンドボールへの関心も年ごとに高まりを見せて来た。

○……この機をとらえて、同チームでは、ハンドボールを一気に〝社技〟の域にまで達せさせようと昨年から、毎年3月に社内大会を企画、実施している。

出場するのは、各職場単位に編成されたチームで、今年は9チームが2面のコートを使い、トーナメントで優勝を争った。

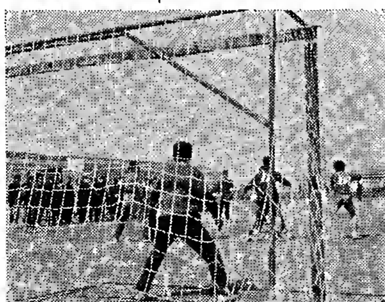
運営にあたる大会役員はもとより、優勝チームに贈られる優勝旗など、どれをとっても、そこらの大会顔負けのスケールだ。

○……狙いは、あくまでハンドボールを理解してもらうことにあるから、ハンドボール部員には出場資格がない。

しかも、試合では常時、係長以上の役職者または女子または35才以上の〝選手〟が出ていなければいけないという規則があるから、職場の和を深めるのにもおおいに役立っている。

今年の大会当日は、小雪のパラつくハダ寒い日だったが、社員の平均年令が29才という〝若い製鉄所〟だけに、熱っぽいムードがコートやコートサイドにあふれ、本職？をしのぐ好プレーも随所にみられ盛会だった。

○……社内のハンドボール大会は大崎電気埼玉工場でも開かれており、かつて本誌（35号）に紹介されたこともあるが、実業団チームの部員たちが、自らの錬磨のかたわら、ハンドボールをそれぞれの職場の中へ広めさせていこうとする努力は大いにたたえられるべきであろう。【M・K】＝写真は富士製鉄名古屋製鉄所々内大会



国際ハンドボール連盟規程集

前回は国内の諸規定をとりあげたが、我国も国際舞台に登場することになり、また日本協会もIHFの傘下にあるので、ハンドボール界の憲法とも云うべき、IHF規約の全訳を掲載する。読者諸氏はこれによって、IHFの内容に接することができよう。

また、関心が高まっている世界選手権にも詳細な規定があるのでその重要部分を掲載し、世界選手権のしくみをしっていただこうという意図である。

国際ハンドボール連盟規約

第一章 名称および所在地

第1条 1 国際ハンドボール協会は1国のハンドボールを統轄していると（国際協会が）認められる各国の組織体によって構成される。

2 1国につきただ1協会のみが認められる。

第2条 IHF（国際ハンドボール協会）加盟各国協会は相互に各国でのハンドボールに関し権限を持つ唯一の協会であると認めあうこととする。

第3条 IHFの所在地は理事長の所とする。

第二章 目的

第4条 IHFはアマチュアハンドボール（11人制および7人制ハンドボール）を完成し、普及することを目的とする。

第三章 連盟機関

第5条 IHFに次の機関を置く。

a 総会
b 理事会
c 常務理事会
d 競技委員会

第一節 総会

第6条 1 総会はIHFの最高の権威を持ち、かつ最終的決定機関である。

2 通常総会は二年毎偶数年に開催される。各通常総会では次の通常総会の日と場所を決める。

3 会長は、何時でも、臨時総会を招集することができる。会長は加盟協会の過半数又は理事の過半数が書面で要求した時、総会を招集しなければならない。

4 臨時総会は要求があってから三か月以内に開催しなければならない。

第7条 1 総会に出席した各国協会は一票の投票権を持つ。各国協会は総会に代表を3名派遣することができる。提案された一切の問題を討議し、決定するのは出席代表の責任である。

2 代表の氏名は総会開会前に文書で以って理事長宛通知することとする。何人も一か国以上の協会を代表する権利を持たない。

3 総会の代表は自己の代表する各国協会のメンバーであり、且つその国の国籍を持たねばならない。代表がこれらの条件を満していない場合は、投票権のないオブザーバーの資格でしか総会に出席できない。

第8条 1 IHF会長は少くとも、4か月前に各国協会に対し通常総会の日を通知することとする。

2 理事長は遅くとも通常総会の6週間前に議事日程を通知することとする。

3 臨時総会の日は少くとも2か月前、議事日程は2週間前に通知することとする。

第9条 通常総会の議事日程は次の事項が含まれる。

1 開会
2 点呼
3 会長と共同して議事録を検査する委員2名の指名
4 総会が正規に招集されたことの確認
5 前回総会議事録の承認
6 会長報告
7 会計報告および会計検査報告
8 役員の解任
9 会長選任
10 副会長2名、理事長、会計理事、理事7名の選任
11 会計監事2名および監事補の指名
12 競技委員会委員長および委員6名の選任
13 事業計画、大会の割当
14 提案の討議
15 年次分担金および予算の決定
16 次期総会の場所と日
17 役員の交代
18 その他

第10条 1 各国協会は3か月前に、IHF会長あて、総会の提案を通知しなければならない。提案および提案理由はフランス語およびドイツ語で作成し、3部送られねばならない。

2 遅れて提出された提案又は総会の時に提出された提案は、総会が三分の二の多数で承認するのでなければ、取り上げることができない。規約改正を目的とするものは、いかなる場合も取り上げることはできない。

第11条 1 IHF会長は総会の議長となる。投票に際し、各国協会は一票の権利を有する。投票は原則として挙手による。ある協会から要求がある場合は秘密投票による。

2 決定は単純多数決による。可否同数の場合は総会議長が決定する。

3 規約の修正は有効投票の三分の二の多数を必要とする。

第12条 ドイツ語、英語、フランス語を総会の公用語とする。発言者がこの三か国語で発言できない場合、自己の経費で自分の発言を忠実に訳させねばならぬ。

第13条 1 総会で採択された決定は三か月後から、IHFおよび加盟協会に対し、有効となる。

2 総会はより早いまたはより遅い発効期日を定めることができる。

第二節 理事会

第14条 理事会は次の13名により構成される。

IHF会長
首席および次席副会長

理事長
会計理事
競技委員会委員長
理事7名

第15条　1　理事会のメンバーは通常総会に於いて、二年を任期として選任される。理事会のメンバーは再選されることができる。

2　理事会のメンバーが任期前に辞任した時は、理事会は辞職した人の属していた国の協会から選ばれた代りの者を指名することができる。この新メンバーは前任者と同様の権利を保有する。

第16条　1　会長はあらゆる場合にIHFを代表する。会長は会議の議長となる。

2　会長は、特に、法延に於いて、原告又は被告としてIHFを代表する。

3　会長不在の場合、総会の時も含め、特別の批准なしに、副会長が会長の権限を行使する。

第三節　常務理事会

第17条　1　常務理事会は次の5名のメンバーで構成する。

IHF会長
理事長
会計理事
違った加盟協会から選ばれた理事会が指名する二名の理事会メンバー

2　常務理事会は諸決定を実施することになっている理事会の監督の下に、IHFの業務を管理する。

3　常務理事会は重要事項を理事会に提出する。

第四節　競技委員会

第19条　競技委員会は次の任務を遂行する。

a　競技規則の作成および解釈
b　国際審判員の養成と指導、IHF主催大会への審判員の任命と登用
c　国際試合を運営するべく申請された審判員に対し、公認証を交付すること
d　各国協会への国際審判員名簿の送付
e　各国ナショナルチーム監督のためのシンポジウム(研究会)の開催
f　IHFが決定した大会に関する諸規定の作成、その大会の準備指揮、監督

第五節　授賞

第20条　理事会の提案にもとづき、総会は高く賞賛される功績でハンドボールの役に立った人に対し、名与会員(メンバーの訳)の称号(タイトルの訳)を授与することができる。

第四章　加盟国

第一節　加盟

第21条　1　総会だけが加盟を承認する資格を有する。加盟を申請しようとする各国の組織体は、総会の三か月前に、常務理事会に規約、アマチュア資格に関する規定および競技規則を通知しなければならない。これら規定類は公用二ヶ国語の一つで作成するか、公認された翻訳の形で提出されるかしなければならない。

2　常務理事会は提出された規約が、IHF規約の原則的な条項と一致するかどうか審査することとする。

3　審査が終れば、IHF会長は仮加盟を認めることができる。正式加盟は次の総会で行なわれる。

第22条　1　ある国の協会加盟に関する投票の際、その協会の代表は退場しなければならない。

2　ある国の協会の加盟が承認されれば、その時からその協会は総会の席につき、また投票にも参加することができる。

第二節　加盟資格の喪失

第23条　加盟各国協会は次の場合加盟資格を喪失する。

a　支払期日後少くとも6か月たって分担金の支払のない場合、常務理事会の決定により。
b　規約第十二章第四十八条、第四十九条の規定に違反した場合。
c　規約違反又はIHF決定事項の不履行の場合、有効投票数の三分の二の多数による総会決定により。
d　一ケ国協会としての性格をもはや持たなくなった時、前項同様の決定により。
e　第二十四条による自身の希望により。

第三節　脱　退

第24条　1　IHFを脱退しようとする場合、その協会は書留郵便で脱退請求を送付しなければならない。

2　前項の協会は三か月経て、その請求をもう一度繰り返さねばならない。

3　前項の三か月(の冷却期間の)後、常務理事会の同意を得て、当該協会は加盟資格を失う。ただし(冷却期間)中にも、IHFおよび他の協会に対する物質的義務を果すことを条件とする。

第五章　財　政

第25条　1　IHFの会計年度は1月1日に始まり、12月31日終了する。

2　会計理事は合法的に会計を整理し、入念に、規約にあった決算を行なう責任がある。会計理事の属している国の協会は現金現在高を保証する。

第26条　1　加盟各国の分担金年額は二年毎に総会に於いて決定する。

2　ある国の協会が4月1日までにその年の分担金を納付しなかった場合、会計理事は書面で、未納金を14日以内に納付するよう請求する。この期限をすぎても支払がない場合には、常務理事会は第六章に定める罰則規定を適用する。

第27条　1　国内に於いて、IHF加盟国チーム相手の国際試合を行なった協会は総収入の5%—男子の場合には最低一五〇スイス・フラン、女子、ジュニアの場合、最低五〇スイスフラン—をIHFに納付しなければならない。

2　この納付金は試合後、三ケ月以内に会計理事に送付しなければならない。納付がない場合には常務理事会は当該協会に罰則を適用する。

3　常務理事会は理事会の承認のもとに外国為替上もしくは通貨上困難に陥っている国の協会に対して、一時的に納付金の減額もしくは免除をすることができる。

第六章　微罰と禁止事項

第28条　1　IHF理事会は常務理事会の提案によって、IHFの規定に抵触したり、従わない国の協会を叱責したり、微罰したりすることができる。叱責は書面を

もつてＩＨＦ加盟の全協会に通知される。

２　常務理事会の課すことのできる最高の徴罰は一千スイスフランであり、総会は最高二千五百スイスフランの徴罰を課すことができる。

第29条　１　ＩＨＦの常務理事会の承認なしには、ＩＨＦ未加盟の国の協会およびそれらの国のクラブチームと関係をもってはならない。

２　ＩＨＦの常務理事会はすでにＩＨＦに加盟している協会がありながら、未加盟の協会及びチームがあるような国では、拒絶することを原則としている。

第30条　ＩＨＦの内部に於いては、各国協会はいかなる分派をも作ってはならない。ただし、ＩＨＦが総会に於いて、三分の二以上の多数を以って決議した場合を除く。

第31条　ＩＨＦに加盟している各国協会、下部組織、およびクラブチームは各国協会の明白な同意なしには、他の国の協会には加盟することができない。

第七章　公用語、文書交換、公式通知

第32条　１　会議議事録、文書交換、公式通知に使用される公式語はドイツ語、フランス語とする。公式通知は規定により、二月毎に公表される。

２　ドイツ語、フランス語、英語を総会に於ける公用語とする。（第12条参照）

３　異議がでない場合には、総会でこれらのうち一つを省略することができる。

４　翻訳の際には、ドイツ語を基準とする。

第33条　１　各国協会はＩＨＦと各国協会の間の公式文書の交換に責任をもつ人を定め、その名前と明確な住所をＩＨＦに通知せねばならない。

２　各国協会はＩＨＦおよびその加盟各協会にそれぞれの協会の公式通知、年報その他の重要書類を送付しなければならない。

第八章　競技規則

第34条　ＩＨＦのすべての加盟国はＩＨＦの競技委員会が作製し解釈し、公表した競技規則によって、ハンドボールが行なわれるようにする責任がある。

第35条　１　競技規則の変更は来るべき年の４月１日に効力を発するように各加盟協会に通知しなければならない。

２　各加盟協会の競技委員会（審判部）はできるだけすみやかに変更を周知徹底させなければならない。

３　各国協会は競技規則の変更を知ったならば、すぐに変更してもかまわない。

第九章　公式試合

第一節　国際選手権大会

第36条　唯ＩＨＦのみが以下に掲げる選手権大会を組織し、加盟国にその実施を委任する権利をもっている。

イ、世界選手権大会

ロ、各国選手権チームによるヨーロッパ杯選手権大会

第二節　試合の定義

第37条　１　国際試合とはＩＨＦの参加国二国の間のナショナルチーム同士で行なう試合である。この際は、それぞれのチームはそれぞれの国名によって、試合を行なう。ＩＨＦの加盟国は自分の国民のみによってチームを作ることができる。

２　他のナショナルチームで試合をしていた選手が他のナショナルチームに移る場合は、新しい国の国籍を獲得した時にはじめて新しい国のナショナルチームの選手になることができる。

第38条　国際チーム試合とは、ＩＨＦに加盟している二ケ国所属のチーム同士が行なう試合のことである。

第三節　国際試合

第39条　１　国際試合終了後、遅くとも14日以内に国際試合の結果をＩＨＦにあらかじめ定められた公式書式によって報告しなければならない。報告にはレフェリー、ゴール・ジャッジ、両国の選手の姓名を含んでいなければならない。

２　この報告が遅れた場合には責任のある各国協会は一週間とその余りにつき一〇〇スイスフランの割で罰金で納めなければならない（訳注、10日遅れれば、一週間と三日たっているから、二〇〇スイスフラン、20日たつと、二週間と六日であるから、三〇〇スイスフラン）。罰金はすぐに納めることとする。

３　このようなことをくりかえす場合には、ＩＨＦの理事会は、より高額な罰金を保すことができる。

第40条１　国際試合の笛を吹くレフェリーは、直接試合に関係していない第三国から招待しなければならない。第三国から招待したレフェリーならば、試合を行なう当事国同士が適当なレフェリーを決めることは構わない。

２　国際試合の笛を吹くレフェリーは必ず、ＩＨＦの国際審判員の公式名簿に名前がのっているレフェリーでなければならない。

第四節　下部組織相互の試合

（これはたとえば日本協会に加盟している地方協会、全日本実業団連盟などチームを作り、どこかの国の協会の下部組織によって構成されているチームと試合をする場合をさしている。）

第41条　国際的な下部組織相互の試合は、その国の協会が認定した場合にのみ、行なうことができる。

第五節　国際チーム試合

第42条　１　国際チーム試合はそれぞれのチームの所属する国の協会が認定した場合にのみ行なうことができる。

２　各国協会は国際チーム試合の申し入れがあり、それを認定した場合には、申し入れをしたチームに対し、それを通知しなければならない。

３　もし、ある国の協会が、自国の領域内に於いて、届出のない試合が行なわれていることを知った場合には、他のチームの所属している国の協会に対して、すみやかにその事実を報告する義務がある。

第十章　選手

第一節　選手登録

第43条　各国協会は協会に所属する選手の登録方法を定め、公布する。ＩＨＦに加盟している諸協会はこれを認めるものとする。

第二節　協会の変更

第44条　1　ある協会を退きたい選手がいた場合には、他の国の協会は選手が協会変更を意図していることを退いた国の協会に通知した時にのみ、その選手を受け入れることができる。

2　その選手がいた国の協会は選手から通告を受けて40日以内に新しい国の協会に協会変更を認めるか、住所変更を審査するから保留するかを文書によって通知する義務がある。

3　この通知がない場合には、新しい国の協会は選手の申しこみを受け、登録することを認める。

第45条　1　協会変更の意志が示され、前にいた協会が選手が何の規定に触れていないにも拘らず、それを拒否した場合には、選手は協会変更の申しこみをした日から、一年間は登録することができない。この期間の間は、どちらの協会にも、登録することはできないこととする。

2　この期間がすぎたならば、新しい協会は選手に登録を認めることにする。

3、登録に関して係争事件がおきた場合には、IHFの理事会がこれを決定する。

第十一章　審判員

第46条　各国協会は毎年必ず、9月30日までに、IHFの競技委員会宛、各観点から見て、国際試合の運営にふさわしいレフェリーのリストを作り、送付しなければならない。このリストには、それぞれのレフェリーの姓名、住所、生年月日、職業、所属チーム、住所、堪能な言葉およびレフェリーとしての経歴と活動状況を短くまとめたものと、11人制、7人制のどちらに向いているか、あるいは11人制7人制のどちらの笛も吹くことができるかを記入していなければならない。

第47条　1　IHFで認められた国際審判員のリストはIHFの競技委員会によって作製公表される。

2　国際試合のために招待されたレフェリーは往復旅費、および滞在中に必要な食費・宿泊費を支給される権利をもっている。

3　IHFによって公認された国際審判員への通知は必ず、その国際審判員が所属する協会をとおして行なわれる。

第十二章　係争事件

第48条　1　各国協会間の係争事件は当事者の間で話し合いがつかない時にはただち、IHFの理事会に届けでなければならない。

2　このIHFの理事会の決定は当事者にとって、最終的であり強制的なものとする。

3　係争当事国の協会は、この決定を実行し、また係争事件に下部組織もしくは傘下チームが関係しているときには、この決定が実行に移されるのに必要な処置を必ずとるように義務づけられている。

第49条　1　IHF加盟の二国間、二つの国の下部組織間、二つの国のチーム間、二つの国に所属している選手間もしくは、IHFとIHF加盟国協会、協会下部組織、傘下チーム、所属選手との間に係争事件が起きた場合、IHFの同意なしに、一般の裁判にもちだすことはできない。

2　この規定を犯し、一般の裁判にもちこんだ協会は、IHFから除名される。

第十三章　不測の事態と緊争事態

第50条　緊急事態もしくは、現在の規約によって、決定できないような事態が生じたならば、IHFの会長によって、決定がなされる。この際、緊急事態、不測の事態に関係した部分に関しては、次の総会において、再考慮するものとする。

第十四章　IHFの解散

第51条　1　IHFの解散は総会において、しかも出席した投票権のある参会者の四分の三以上の賛意が得られた時にのみ決議することが可能である。

この際、IHFの解散の提案はすべてのIHF加盟の各国協会に総会の議事日程と同時に（総会開催の六週間前）通知しなければならない。

2　IHFの解散を総会が決議した場合には、総会は同時に資産の振り向け使用法および、未定の財政上の問題の責任の解決方法についても決定することとする。資産は公益の、スポーツ上の目的にのみふりむけることができることとする。

（訳、境井秀三・藤本　強）

IHFには後掲の世界選手権規定のほかに、ヨーロッパ以外の諸国からも参加を認めている各国チャンピオンチームによって争われる「ヨーロッパ杯規定」。功労者を表彰する「表彰規定」。IHFの執行面をとりしきっている理事会についての詳細を決めている「理事会規定」。罰金主義を旨とした内容をもっている「徴罰規定」の諸規定がある。

この他に、「アマチュア規定」もあるが、我国のハンドボール協会の「アマチュア規定」はこれに準じているので、割愛することにした。

世界選手権大会規定（抄訳）

第一章　組織運営

ＩＨＦ規約第37条によって、ＩＨＦは男子・女子世界選手権（7人制・11人制）大会を組織する。

総会は加盟国にその実施を委任する。これは理事会に於いて決定することもできる。

各国は世界選手権大会に参加する権利をもっており、理事会はその参加を認定する。

世界選手権大会は原則として次の時期に開催する。

11人制　6月もしくは7月
7人制　2月もしくは3月

世界選手権大会諸要項は常務理事会が作製する。

常務理事会宛各国は参加の意志を示し、同時にその保証をしなければならない。

保証は申しこみと同時にしなければならない。

期間をすぎてからの申しこみは一切考慮されない。

第二章　財　政

参加国は開催国の首都もしくは最初に試合が行なわれる場所がより近くならば、その場所までの往路の旅費および、首都からの帰途の旅費をもち、選手団の誰かが負傷、病気などの事故にあった場合、それに要する費用を負担する。

開催国は次の費用を負担することになっている。

1、開催国内を移動するのに要する経費

2、一参加国につき、20人の選手団の決勝の翌日までの宿泊・食費、準決勝リーグで破れた国は、準決勝リーグのおわった翌日までの費用

3、競技委員および世界選手権にレフェリーをするため招かれた国際審判員の往復旅費および宿泊・食費

4、常務理事の宿泊・食費

5、各試合の総売上高の5%（テレビジョン収入も含む）をＩＨＦに提出する。男子の試合の場合、最低一五〇スイスフラン、女子の試合の場合、最低五〇スイスフランを納入するものとする。

第三章　競　技

開催国はＩＨＦと相談して、日時と場所を定める。

競技規則はＩＨＦの公式規則とする。

参加国の数によって、試合は、予選、本大会（準決勝、決勝）によって行なわれる。

競技委員会はそのつど試合方法について検討する。

ＩＨＦは本大会の始る二月前までに試合方式を通知する。

・三位までのチームの選手役員20名を一位金メダル、二位銀メダル、三位銅メダルによって表彰する。

優勝決定戦のレフェリーには金メダルが贈られる。他の参加国とレフェリーには競技委員、常務理事と同様に記念品が贈られる。

競技委員会はレフェリーの数を検討し、大会に於いて審判をするレフェリーを推薦する。

ＩＨＦは大会開始一月前にそのレフェリーの都合を聞き、決定する。レフェリーは準備のため二日前に到着するものとする。

開催国はレフェリーに次のものを保障する。

往復旅費（汽車・船とも一等）
ビザのための費用
往復に要する日数一日につき、20スイスフランの費用
準備期間および選手権期間の滞在費
三十スイスフランに当る開催国の金額をプレミアムとして

選手団は自国の選手で構成し、最大16人の選手と4人の役員からなる。選手はそれぞれ1～16の背番号をつけ、選手のリストは遅くとも前日の12時までに届けなければならない。

ボールは競技委員会が前もってチェックする。

試合の日程、審判の選定審判の判定についての抗議はできない。

予選

本大会の参加国以上に各国が参加を申しこんだ場合には予選が行なわれる。

予選は約1年前に行なわれる。

予選方法については、別表参照のこと。二チームの予選の場合は二回戦方式で行ない次のように、勝敗を決定する。

1、勝ち点（勝ち2点、引分1点負0点）
2、得失点差
3、第三の国に於ける新しい試合
4、もし第3の試合が延長戦の後も引分であったならば、この試合のレフェリーは、試合終了直後、両チームのキャプテン立合の下に抽選をし、勝敗を決める。

三チーム以上の予選の場合にはそれぞれのチームと二試合づつ試合をし次のように決定する。

1、勝ち点
2、得失点差
3、総得点数
4、問題となっているチーム同士の勝敗
5、第3の国に於ける新しい試合
6、試合後抽せん

本大会については次表を参照のこと（藤本強・抄訳）

世界選手権大会試合方式

本大会のチーム数	16 チーム	12 チーム	9 チーム	8 チーム
期間	10日	9日	9日	6日
チームの試合数	6	5	4～5	4
予選なしで参加できるチーム	前回優勝国 開催国 各大陸につき1チーム	前回優勝国 開催国	左に同じ	左に同じ
予選のシード	前回の2～8位までは対戦しない．	前回の2～6位までは対戦しない		
予選形式	2回戦方式 リーグ戦でもそれぞれ二回戦方式をとる．	左に同じ	左に同じ	左に同じ
準決勝リーグ	4チームずつ 4グループに分れたリーグ戦．	3チームずつ 4グループに分れたリーグ戦	3チームずつ 3グループに分れたリーグ戦	4チームずつ 2グループに分れたリーグ戦
決勝形式	準決勝リーグ1位、2位のチーム8によるトーナメント．3～8位もそれぞれトーナメント形式によって決定． 準決勝リーグ3位のチーム4によって，9～12位決定戦もトーナメント形式によって行なうことがある．	左に同じ	各グループの1，2位のチームによって，3チームずつのリーグ戦 I　A_1，B_2．C_1 II　A_2，B_1，C_2 それぞれのグループの1位，2位，3位の間で1，3，5位決定戦 準決勝リーグ3位のチームによって7～9位決定リーグ	1，2，3，4位チーム同士によって，1，3，5，7位決定戦を行なう．
勝敗決定法（リーグ戦）	1．勝ち点 （勝2点，引分1点，負0点） 2．得失点差 3．総得点数 4．当該チーム同士の勝敗	左に同じ	左に同じ	左に同じ

同志社大が3度目の優勝

西日本学生　2位は健斗の大阪体育大

新シーズンの開幕を飾る第8回西日本学生選手権は4月11日から4日間、神戸市中央体育館に23大学（関西21、中四国2）が参加して行なわれた。

2連勝を狙う関西大（関西）が関西2部の大阪体育大（関西）に敗れるなど、シーズン初めらしく波乱がつづいたが、同志社大（関西）が、まとまりある攻守で2年ぶり3度目の優勝を飾った。

2位には1部校を連破した大阪体育大が食いこみ注目された。

▽1回戦

大阪市大（関西）24（16―7、8―7）14 和歌山大（関西）

追手門大（関西）31（14―4、17―6）10 近畿大（関西）

大阪外語大（関西）17（9―8、8―6）14 京都教大（関西）

桃山学院大（関西）35（15―3、20―3）6 大阪薬科大（関西）

大阪経済大（関西）29（14―3、15―9）12 岡山大（中四国）

立命館大（関西）23（10―6、13―6）12 大阪歯科大（関西）

大阪大（関西）22（11―6、11―7）13 大阪府立大（関西）

▽2回戦

関西大（関西）29（16―3、13―8）11 大阪市大

大阪体育大（関西）36（18―3、18―3）6 京都産業大（関西）

大阪外語大 29（14―4、15―5）9 追手門大

京都大（関西）23（13―8、10―12）20 甲南大（関西）

関学（関西）19（8―7、11―11）18 桃山学院大

大阪経済大 17（19―4、7―7）11 山口大（中四国）

神戸大（関西）20（9―1、11―4）5 立命館大

同志社大（関西）27（15―4、12―5）9 大阪大

▽準々決勝

大阪体育大 11（6―3、5―5）8 関西大

京都大 20（11―9、9―9）18 大阪外語大

大阪経済大 24（14―9、10―7）16 関学

同志社大 26（11―3、15―5）8 神戸大

▽準決勝

大阪体大 20（6―4、14―6）10 京都大

得	【体大】		【京大】	得
0	山口	GK	伊賀	0
0	谷岡	GK	緒方	0
1	羽東	FP	足立	0
1	中村	FP	日下部	4
8	坂口	FP	川島	2
1	伊藤	FP	岡本研	4
2	植田	FP	三品	0
2	森脇	FP	西本	0
0	辻	FP	大木	0
2	谷川	FP	藤森	0
3	森	FP	橋爪	0
20	（2）	7MT	（0）	10

○……前半は両チームとも拙攻がつづき、さして好調とは思えぬ互いのディフェンスをくずすことができなかった。

後半になって、ようやく動きがよくなり、特に後半9分9―7から一気に8点をもぎとった大阪体大の坂口、森らの攻撃力はみごとだった。京大は、まだ本調子ではないようだ。

同志社大 23（12―5、11―9）14 大阪経大

得	【同大】		【経大】	得
0	和保	GK	藤本	0
0	二橋	GK	今井	0
1	松浦	FP	西村	0
7	舟木	FP	森元	0
0	高橋	FP	脇田	5
3	町田	FP	清水	1
0	光田	FP	永野	3
3	中井	FP	木村	2
3	阪野	FP	桐	3
6	中野	FP	沢田	0
0	大羽	FP	高川	0
23	（2）	7MT	（0）	14

（主審　浅野）

○……立ちあがり大阪経大の食い下りを許した同大も16分舟木、14分中井のゲットで5―3としてからは自己のペースで試合を進め前半で勝負を決めた。

大阪経大は、後半反撃の気勢をあげたものの、余祐を持った同大を崩すまでにいたらず、結果的には完敗だった。

▽3位決定戦

大阪経大 21（12―8、9―7）15 京都大

▽決勝

同志社大 25（11―6、14―6）12 大阪体大

得	【同大】		【体大】	得
0	和保	GK	山口	0
0	二橋	GK	谷岡	0
3	松浦	FP	羽東	0
5	舟木	FP	中村	0
0	高橋	FP	坂口	3
1	町田	FP	伊藤	4
9	中井	FP	植田	2
2	阪野	FP	谷川	1
5	中野	FP	森	0
0	光田	FP	森脇	2
0	大羽	FP	辻	0
25	（6）	7MT	（1）	12

（主審　村田）

○……上げ潮にのる大阪体大の試合ぶりに注目が集ったが、同大が10分4―0と開く先制攻撃に成功、その後も順調に加点、攻守に一日の長を見せて大阪体大を突きはなした。

同大は昨年よりもチームとしてのまとまりはよいようで、中井、舟木のゲッターを活かす松浦ら他のプレイヤーの動きもよく″打倒関東″の一番手に推してよさそうだ。

○……敗れたりとはいえ大阪体大の健斗は賞される。二部校が決勝に進出したのは、この大会の前身関西学生トーナメント時代から通しても初めてのこと。坂口、伊藤を軸に、全員が地味ながら忠実なプレーをみせていたのが躍進の因だろう。今後の成長を大いに期待したい。

（駒沢）

広、山陽女ら勝ち名のり

早くも全日本高校代表決まる

今年の全日本高校選手権は7月29日から広島県甘日市町で開かれるが、早くも地元・広島県代表校が決まった。

勝ち名のりをあげたのは、男子は広と三原工、女子は山陽女子と広島第一女商の4校。

▼全日本高校広島予選＝男女とも上位2校が代表

▽男子準決勝

広 22―10 呉三津田

三原工 10―7 修道

▽同決勝

広 21（8―8、13―10）18 三原工

▽女子準決勝

山陽女 17―2 宮原

広島一女商 5―4 進徳

▽決勝

山陽女 8（5―1、3―2）3 広島第一女商

下関中央工、3度目の栄冠

山陽女敗れる 女子は真備（岡山）が初優勝

第19回 中国高校

今年のブロック高校選手権のトップを切って、4月20、21の両日岡山操山高コートに中国5県から男女29校が参加して行われた。

男子は、昨年優勝の宇部工（山口）や有力といわれた岩国工（山口）、修道（広島）などが県予選で敗れて姿を見せず混戦が予想された。山口、広島勢が2校づつベストフォアを分け、下関中央工（山口）――広（広島）の決勝となったが、下関中央工が巧みな試合運びで快勝、2年ぶり3度目の優勝をとげた。

一方、女子は4連勝を狙い、今夏の全日本高校でも上位を約束される第1シードの山陽女（広島）が、準々決勝で地元真備（岡山）のディフェンスに得意の速攻を封じられて敗れる波乱があった。優勝は真備――岩国商（山口）の顔合せとなり調子の波にのった真備が、前半から優位に立ち、初の優勝を飾った。岡山代表の優勝は8年ぶり。

▼男子1回戦

三原工（広島）16—6 操山（岡山）
呉三津田（広島）22—12 浜田水産（島根）
倉敷商（岡山）15—14 延長 下松工（山口）
境（鳥取）16—7 松江工（島根）
岩国（山口）20—16 矢掛（岡山）
広（広島）27—3 松江商（島根）
山口（山口）17—7 児島（岡山）

▽同準々決勝

下関中央工（山口）11（6—4、5—2）6 三原工
呉三津田 17（9—4、8—6）10 倉敷商
岩国 15（6—7、9—6）13 境
広 18（7—7、11—4）11 山口

▽同準決勝

下関中央工 17（9—5、8—4）9 呉三津田
広 20（9—6、11—12）18 岩国

▽同決勝

下関中央工 17（8—5、9—7）12 広

▼女子1回戦

真備（岡山）12—7 下関西（山口）
高水（山口）9—7 呉商（広島）
津山商（岡山）13—11 松江農林（島根）
井原（岡山）15—2 境（鳥取）
岩国商（山口）9—4 松江市立（島根）
徳山（山口）14—8 倉敷青陵（岡山）

▽同準々決勝

真備 9（5—2、4—6）8 山陽女（山口）
津山商 9（3—2、6—4）6 高水
岩国商 7（5—4、2—2）6 井原
広島第一女商（広島）4（2—1、2—3：0—0、0—0）4 徳山

広島第一女商の抽せん勝ち

▽同準決勝

真備 8（3—3、5—1）4 津山商
岩国商 3（1—2、2—0）2 広島第一女商

▽同決勝

真備 4（3—1、1—0）1 岩国商

各地の記録 （寄稿歓迎）

三菱レ、5年ぶりの優勝

宇部工専ベスト4に

今年度ブロック選手権のトップを飾る第13回中国選手権（一般男子）は4月20、21の両日、岡山県体育館に、中国5県から実業団、クラブ、学生など8チームが参加して行われた。

各チームの実力が伯仲し、熱戦が相ついだが、決勝は3連勝を狙う菊松会と、新人の補強なった三菱レイヨン大竹の広島同士の争いになり、三菱レが、前半で13点差をつけて大勢を決め、後半菊松会の懸命な反撃を、互角にうけとめ快勝、5年ぶり5度目の優勝をとげた。

この両者を追って、各チームも充実した布陣で内容のあるゲームがつづいたが、なかでも地道な活動を見せている宇部工専（山口）が、広島商大（広島）を破り、菊松会に善戦した試合ぶりは大いに賞されよう。高専のとりあつかいについては全日本学連も高体連も積極的に論議を進めたという話を聞かないだけに、宇部工専の進出は、改めてこの問題を提起することにもなろう。

▽1回戦

菊松会（広島）22（10—9、12—12）21 岡山大（岡山）
宇部工専（山口）17（7—7、10—7）14 広島商大（山口）
三菱レ大竹（広島）34（12—7、22—8）15 関西高OB（岡山）
日本鋼管福山（広島）32（17—8、15—13）21 徳山ク（山口）

▽準決勝

菊松会 20（8—9、12—10）19 宇部工専
三菱レイヨン大竹 18（10—10、8—4）14 日本鋼管福山

▽決勝

三菱レイヨン大竹 28（17—4、11—12）16 菊松会

伏見クBが快勝

高校男子は洛星

▼第12回京都府室内選手権（3月、京都市体育館）

▽一般男子準々決勝

伏見クB 19—9 洛東ク
星友会 12—9 市役所
塔南OB 棄権 西友会
篁会 11—10 伏見クA

▽準決勝

伏見クB 19（10—2、9—10）12 星友会
塔南OB 16（6—5、10—6）11 篁会

▽決勝

伏見クB 19（9—5、10—5）10 塔南OB

▼高校男子決勝トーナメント

▽準決勝

伏見工 17（6—5、11—2）7 桃山
洛星 16（6—2、10—2）4 塔南

▽決勝

洛星 9（4—4、2—2、2—0、1—0）6 伏見工

▼高校女子 決勝リーグ

明徳商 8（4—2、4—1）3 塔南
精華 19（6—2、13—1）3 塔南
明徳商 13（7—4、6—3）11 精華

（順位）①明徳商 ②精華 ③塔南

▼中学男子決勝

洛星 21—4 皆山

▼同女子決勝
洛　南 13－2 高　雄

寝屋川ク、イーグルス降す

▼第7回大阪室内選手権（大阪市立体育館ほか）
▽男子準々決勝
大阪イーグルス 23－14 富田林ク
寝屋川ク 22－16 潮　ク
三国丘ク 28－12 O・T・C
桃蔭ク 22－10 岸和田ク
▽同準決勝
寝屋川ク 29（17－9、12－11）20 大阪イーグルス
三国丘ク 19（8－8、11－4）12 桃蔭ク
▽同決勝
寝屋川ク 25（13－4、12－13）17 三国丘ク
▽女子決勝
大谷ク 16（5－4、11－6）10 大阪ク

男女とも小松勢勝つ

▼石川県高校春季選手権（4月・松任農）
▽男子準決勝
小　松 18（11－3、7－7）10 津　幡
金沢工大附属 14（3－4、11－5）9 星　稜
▽同決勝
小　松 17（5－3、12－2）5 金沢工大附属
▽女子準決勝
小松市女 20（8－0、12－3）3 羽　咋
金沢商 12（4－2、8－1）3 明　徳
▽同決勝
小松市女 20（9－0、11－2）2 金沢商

桜丘会、強味示す

▼第4回愛知クラブ対抗リーグ（3月・名古屋金山体育館）＝男子のみ
▽1部
桜丘会 22－9 東山ク
東杏会 16－13 名大ク
愛工ク 16－12 向陽ク
桜丘会 30－5 名大ク
東杏会 13－6 向陽ク
愛工ク 17－11 東山ク
桜丘会 15－10 向陽ク
愛工ク 13－6 名大ク
東杏会 20－12 東山ク
向陽ク 26－16 名大ク
桜丘会 17－9 愛工ク
名大ク 16－10 東山ク
東杏会 22－8 愛工ク
東山グ 11－9 向陽ク
桜丘会 19－4 東杏会
【順位】①桜丘会5戦全勝＝4連勝②東杏会4勝1敗③愛工ク3勝2敗④向陽ク⑤名大ク⑥東山ク（得失点差で4位以下は決定）
【2部順位】①中京ク5戦全勝＝新加盟初優勝②尾北ク③中川ク・一宮ク・松蔭ク⑥愛商ク
▽1・2部入れ替え戦
中京ク 25－8 東山ク
中京クが1部へ昇格

地方協会告知板

近畿協会、日程を発表

近畿協会では、このほど43年度の事業日程を次のように決めた（学生関係は除く）
▽20回全日本総合近畿予選会（7月7日・場所未定）▽第6回5大都市大会ハンドボール競技（7月12、13日・京都）▽第11回近畿高校選手権（7月21～23日・彦根）▽第23回国体近畿予選（8月17、18日・春日丘高）▽近畿中学総合体育大会ハンドボール競技（8月25、26日・和歌山）▽第8回西日本選手権近畿予選＝一般男子のみ（10月・場所未定）

中国ブロックも

中国協会主催による今年度ブロック大会の日程は次の通り
▽第20回全日本総合選手権中国予選会（6月23日、松江市）
▽第23回国体中国地区予選（8月24、25日松江市）

理事長に西村氏

愛知実業団連盟は、43年度役員を次のように決めた。
▽副会長（会長代行）田中滋章▽理事長　西村亮治（大同製鋼）▽常任理事　熊沢勝、横地宇吉、戸谷克蔵銅

岡山協会の新役員

30年の球史を刻んだ岡山協会は43年度役員を次のように決めた。
▽会長　村山寛△理事長　辻一義（落合高）▽常任理事　安田正二松田捷正、坂手卓資、田口和男、笹井卓、猪原昭、安井淳史、大西富男▽県高体連部長、板谷二郎▽同理事長、猪原昭

3学連、新役員を発表

東北・北海道、中四国、九州三学連は新年度役員を次のように決め発表した。
▼東北・北海道学連▽会長、峯岸義秋（東北大部長）▽理事長、橋森禎二（東北大OB）▽委員長、三河憲（東北学院大）▼中四国学連▽会長、秋山政彦▽理事長、藤田信義▽委員長、中内洋（山口大）▽副委員長、藤沢正博（林山商大）▼九州学連▽会長　古賀武夫（西南学院大学長）▽理事長山崎剛（西南学院大教）▽委員長青木祥生（西南学院大）

表紙写真を募集

本誌54号（6月1日発行）の表紙写真として、春の各地学生リーグ戦を題材とした作品を募ります。〆切日は5月20日。キャビネ判以上。編集部あてお送り下さい。

編集後記

本誌がお手許に届く頃には、まさに春たけなわ、シーズンも深まり、各地で熱戦がくり拡げられていることでしょう。
忙しい季節、年になります。すぐに女子の世界選手権、それがおわれば、男子の世界選手権が眼の前につづいてきます。
各チームとも新戦力を導入して強化につとめているようです。
新しい組み合せによる新しい対戦がより高い技術へ、よりすぐれた戦術を展開してくれるでしょう。
今月は、女子の世界選手権の展望、今シーズンの国内の展望、更にIHFの規定をもりこみました。
また、村田弘氏には、技術に対する一文をちょうだいしました。今後とも、こういった技術の原稿を各氏に依頼し、豊富な内容をもりこんでいきたいと考えているのです。
より高い技術・戦術・マナーを求めて、熱戦が展開され、日本のハンドボールを高めていきたいものです。
本誌もおよばずながら、そういったハンドボール界のお手伝いをしていきたいと思います。ぜひどんどん原稿を送って下さるようお願いします（TF）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第五十三号
昭和四十年六月十（　）第三種郵便物認可
昭和四十三年四月二十五日印刷　昭和四十三年五月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話　大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価百五十円
（年間購読11回・千二百円）